

# 高知県埋蔵文化財センター年報

第20号

2010年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



# 高知県埋蔵文化財センター年報

第20号

2010年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



## 序

平成22年度は新たに3年間の指定管理者として、多くの県民の方に埋蔵文化財に親しんで頂けるよう公開講座の回数も増やし、取り組んでまいりました。

まず、広報普及事業では、より見やすい年間行事カレンダーの作成やホームページの修正等を行い利用者の便を図ると共に「掘りゆうぜよ高知 2010 遺跡の館 夏休み企画」と銘打った親子考古学教室を中心とした夏休みの催しを紹介したチラシを平成22年度も県内の小学生全員に配布させて頂き、30回予定していた親子考古学教室には、延べ1,177人の親子に参加頂きました。また、「ガラス玉づくり」を行った古代ものづくり体験教室は女性に人気で、67人の方に参加頂きました。学校に出向いて授業を行う出前考古学教室も人気で、66校、延べ2,470人の児童生徒に授業を行いました。これまでに授業を受けた児童生徒は17,032人、遺物の展示解説などに参加した児童生徒は25,269人に上り、埋蔵文化財センターの欠くことのできない事業になっています。

発掘調査事業は、国を中心に5件の事業を受託し、6遺跡の発掘調査と7遺跡の整理作業を中心に実施しました。中でも国土交通省関係の報告書の印刷経費が認められ、懸案であった『花宴遺跡』、『西野々遺跡Ⅱ』、『西野々遺跡Ⅲ』、『徳王子前島遺跡』を刊行することができました。報告書の刊行を以て記録保存のための発掘調査は完了します。今後とも活用し得る報告書の刊行に努めてまいりたいと思っております。

最後になりましたが、埋蔵文化財センターは高知県の歴史解明に繋がる発掘調査事業と共にその成果を広く県民の方に伝える広報普及事業が一体となるように今後とも努めてまいります。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に心の安らぎの場となって行きたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年8月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所長 森田 尚宏

## 例言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成 22 (2010) 年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「Ⅲの2の(4) 出前考古学教室」と「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」は担当が中心となって執筆を行い、廣田が取りまとめ編集した。それ以外は廣田が執筆、編集した。
3. 「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」に掲載した遺跡位置図はS=1/25,000の地形図を使用している。
4. 本書作成データについては、巻末の奥付上段に記している。

## 本文目次

I 財団法人高知県文化財団.....	1	1. 東野土居遺跡(10-1KH).....	37
1. 財団法人高知県文化財団の概要.....	1	2. 関遺跡(10-2NS).....	40
2. 財団法人高知県文化財団の組織.....	1	3. 田村北遺跡(10-3NT).....	41
II 埋蔵文化財センター.....	3	4. 田村西遺跡(10-4NTN).....	42
1. 埋蔵文化財センターの概要.....	3	5. バーガ森北斜面遺跡(10-5IB).....	44
2. 埋蔵文化財センターの組織.....	3	6. 徳王子大崎遺跡(10-6KO).....	46
3. 埋蔵文化財センターの施設.....	5	V 条例・規則等.....	47
4. 利用方法等について.....	6	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例.....	47
III 年間事業の概要.....	7	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則.....	51
1. 発掘調査事業.....	7	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定 .....	52
2. 指定管理事業.....	14		
3. その他の事業.....	36		
IV 各遺跡の発掘調査概要.....	37		

## 表目次

表 1 高知県文化財団役員一覧.....	2	表 13 平成22年度物品(県有物)貸出一覧.....	22
表 2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧.....	4	表 14 平成22年度Web公開した報告書等.....	23
表 3 発掘調査推移表.....	7	表 15 平成22年度施設等見学者一覧.....	24
表 4 平成22年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡) 一覧.....	8	表 16 平成10～22年度出前考古学教室実績一覧.....	25
表 5 平成22年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧 .....	10	表 17 平成22年度出前考古学教室前期実績一覧.....	27
表 6 平成22年度埋蔵文化財センター刊行報告書 一覧.....	13	表 18 平成22年度出前考古学教室後期実績一覧.....	29
表 7 入館者推移表と平成22年度の入館者.....	14	表 19 平成22年度職員専門研修.....	33
表 8 平成22年度考古学講座.....	18	表 20 平成22年度独立行政法人国立文化財機構奈良文 化財研究所埋蔵文化財担当者研修課程.....	33
表 9 公開講座参加者数.....	18	表 21 平成22年度現地説明会一覧.....	33
表 10 平成22年度発掘調査報告会.....	19	表 22 平成22年度講師等派遣依頼一覧.....	34
表 11 平成22年度公開講座1.....	21	表 23 平成22年度会議等参加者一覧.....	35
表 12 平成22年度公開講座2(親子考古学教室).....	21	表 24 平成22年度職員自主企画研修参加者一覧.....	36
		表 25 平成22年度整理作業指導者一覧.....	36

## 図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 5 受託発掘調査事業推移グラフ.....	7
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図.....	3	図 6 平成22年度受託事業発掘調査位置図(番号は受 託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一 致).....	9
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800).....	5	図 7 平成22年度受託事業整理作業位置図(番号は受託 発掘調査事業(整理作業)一覧表の番号と一致).....	11
図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800).....	6		

目次

図 8 入館者に占める親子考古学教室の割合.....	15	図 12 田村西遺跡位置図.....	42
図 9 東野土居遺跡位置図.....	37	図 13 バーガ森北斜面遺跡位置図.....	44
図 10 関遺跡位置図.....	40	図 14 徳王子大崎遺跡位置図.....	46
図 11 田村北遺跡位置図.....	41		

写真目次

写真 1 年間行事カレンダー.....	14	写真 20 職員専門研修1.....	34
写真 2 展示報告会.....	15	写真 21 職員専門研修2.....	34
写真 3 第2回 続・発掘へんろポスター.....	16	写真 22 職員自主企画研修(新平里遺跡住居跡).....	35
写真 4 企画展2ポスター.....	16	写真 23 遺構完掘状態.....	37
写真 5 特別展ポスター.....	17	写真 24 古代の総柱建物跡.....	38
写真 6 特別展記念講演会.....	17	写真 25 壺棺検出状態.....	38
写真 7 発掘調査報告会.....	18	写真 26 庄内式甕出土状態.....	39
写真 8 掘りゆうぜよ高知2010.....	19	写真 27 遺跡遠景.....	40
写真 9 親子考古学教室.....	19	写真 28 遺構完掘状態.....	40
写真 10 古代ものづくり体験教室.....	20	写真 29 遺構完掘状態.....	41
写真 11 発掘現場見学会.....	20	写真 30 遺物出土状態.....	41
写真 12 ホームページ.....	22	写真 31 竪穴建物跡完掘状態.....	42
写真 13 施設見学.....	23	写真 32 溝跡遺物出土状態.....	43
写真 14 授業風景.....	26	写真 33 遺構完掘状態.....	44
写真 15 遺物展示解説.....	26	写真 34 弥生土器出土状態.....	44
写真 16 火起こし.....	28	写真 35 石庖丁出土状態.....	45
写真 17 勾玉づくり.....	28	写真 36 遺構完掘状態.....	46
写真 18 東野土居遺跡1回目現地説明会.....	32	写真 37 弥生土器出土状態.....	46
写真 19 東野土居遺跡2回目現地説明会.....	33		

# I 財団法人高知県文化財団

## 1. 財団法人高知県文化財団の概要

### (1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといった県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代の趨勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことが何よりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して、総合的・体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

### (2) 事業内容

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- ② 教育、学術及び文化の国際交流事業
- ③ 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- ④ 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ⑤ その他文化振興に関する事業

### (3) 設立年月日

平成2年3月28日

### (4) 事務局所在地

高知県高知市高須353-2  
高知県立美術館内

## 2. 財団法人高知県文化財団の組織

### (1) 財団組織

#### ① 理事会役員

理事長1名 副理事長1名 理事8名 監事2名

#### ② 事務局

総務部長 - 総務課長 - 事務職員

2. 財団法人高知県文化財団の組織

③ 財団組織図

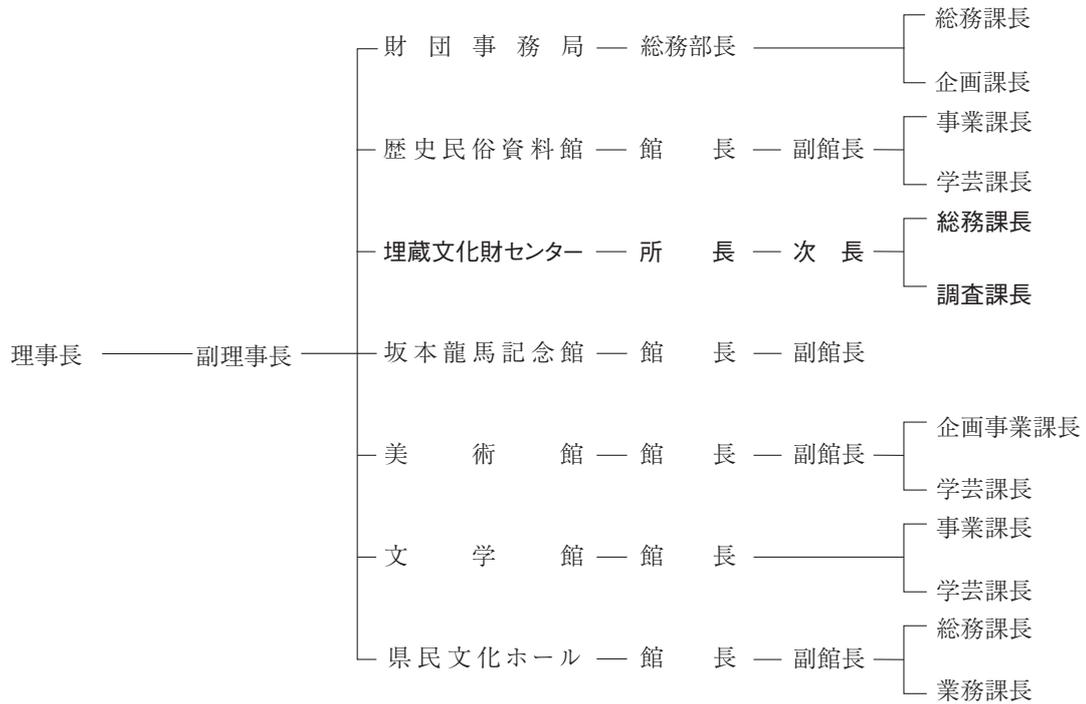


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団役員一覧

役職名	氏名	備考
理事長	島田 京子	
副理事長	青木 章泰	(株)四国銀行代表取締役頭取
理事	大崎 富夫	高知県文化生活部長
〃	岡崎 誠也	高知県市長会会長
〃	吉岡 珍正	高知県町村会会長
〃	藤戸 謙吾	(株)高知新聞社代表取締役社長
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭
〃	伊野部 重晃	(株)高知銀行代表取締役頭取
〃	山本 眞壽	染織家
〃	藤田 直義	高知県立美術館館長
監事	高橋 重一	(株)四国銀行取締役お客様サポート部長
〃	廣光 良昭	税理士

平成23年3月31日現在

## Ⅱ 埋蔵文化財センター

### 1. 埋蔵文化財センターの概要

#### (1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

#### (2) 事業内容

##### ① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

##### ② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

##### ③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

##### ④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

##### ⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

#### (3) 設立年月日

平成3年4月1日

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

### 2. 埋蔵文化財センターの組織

#### (1) 埋蔵文化財センターの組織図

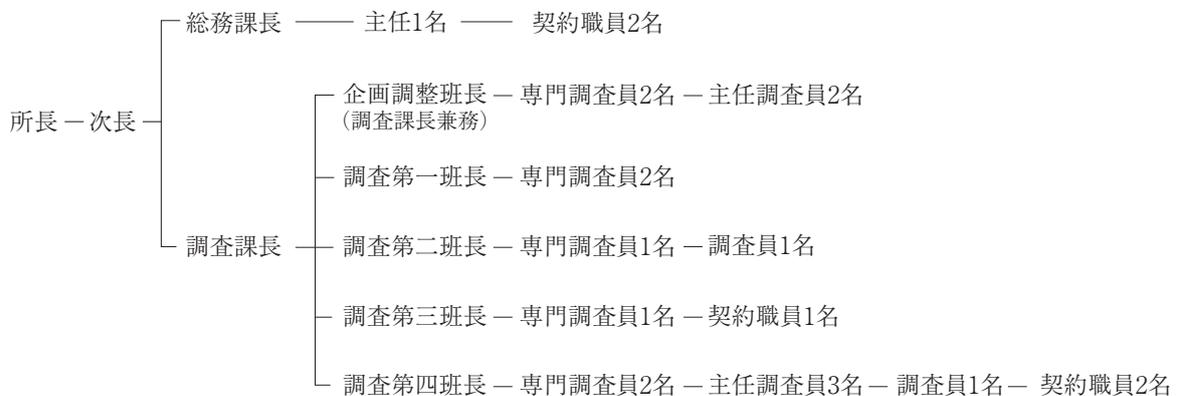


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		小笠原 孝夫	県教育委員会文化財課副参事	
次 長		森田 尚宏	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	里見 敦典	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	弘末 節子	県教育委員会文化財課主任	
	契約職員	榊 琴美	(財)高知県文化財団	
	〃	濱田 晶	〃	
調査課	調査課長	廣田 佳久	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	企画調整班	企画調整班長(兼)	廣田 佳久	〃
		専 門 調 査 員	藤野 明弘	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	坂本 幸繁	県教育委員会文化財課社会教育主事
		主任調査員	中石 忍	〃
		〃	徳平 涼子	(財)高知県文化財団
	調査第一班	調査第一班長	山本 哲也	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	前田 光雄	県教育委員会文化財課主任
		〃	近藤 孝文	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
	調査第二班	調査第二班長	吉成 承三	(財)高知県文化財団
		専 門 調 査 員	笠井 秀人	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		調 査 員	松本 安紀彦	(財)高知県文化財団
	調査第三班	調査第三班長	池澤 俊幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	坂本 憲昭	(財)高知県文化財団
		契 約 職 員	西川 雅美	〃
	調査第四班	調査第四班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	安岡 猛	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	鍵山 真一	県教育委員会文化財課社会教育主事
		主任調査員	久家 隆芳	(財)高知県文化財団
		〃	筒井 三菜	〃
		〃	下村 裕	〃
		調 査 員	島内 洋二	〃
		契 約 職 員	奥宮 千恵子	〃
		〃	友永 可奈	〃

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に広報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地：高知県南国市篠原1437-1

敷地面積：4,203㎡

建物構造：本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫：重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積：2,073.93㎡

(本館：615.58㎡ 北館：259.20㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡ プロパン庫：5.64㎡)

延床面積：4,136.16㎡

(本館：1,038.68㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,527.52㎡ プロパン庫：5.64㎡)

事業費：650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

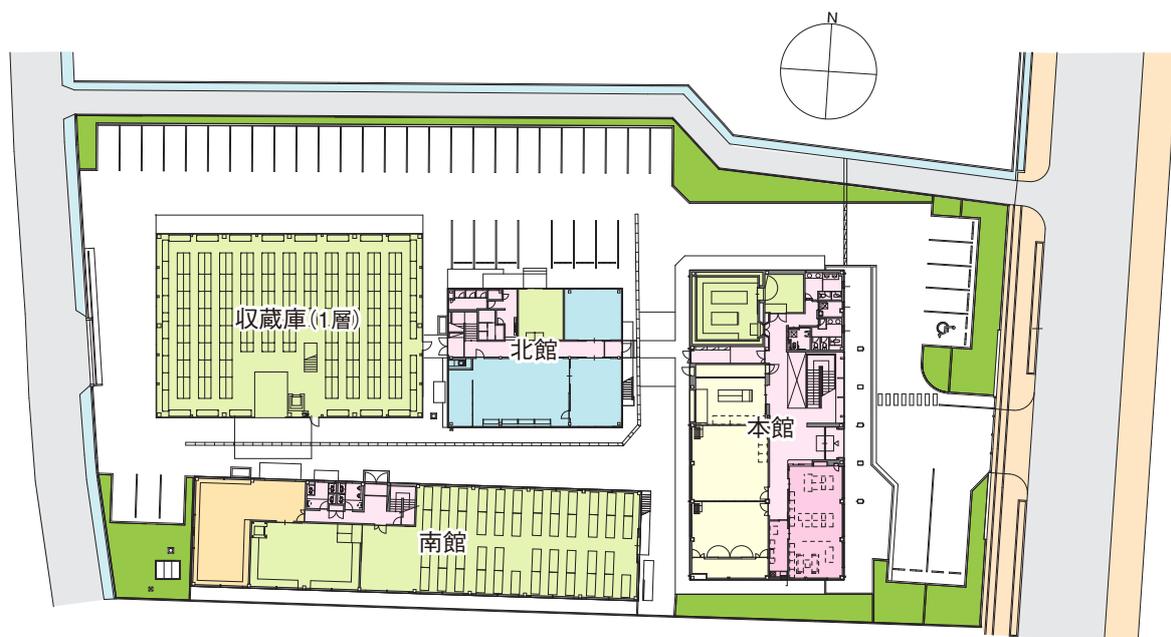


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

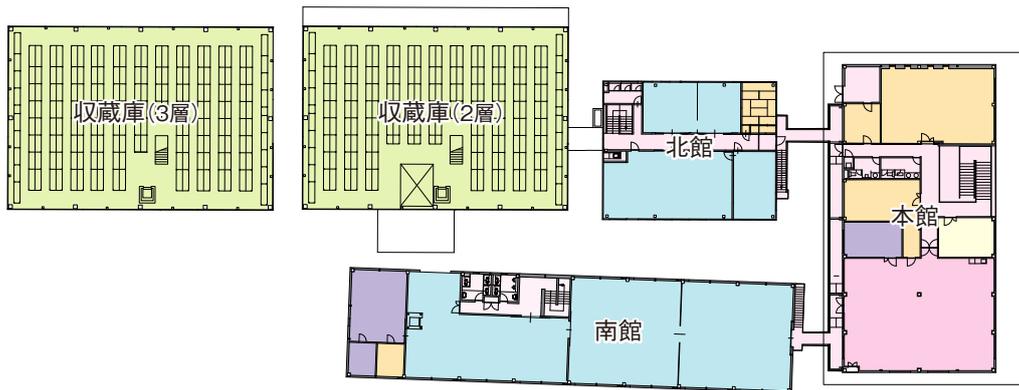


図4 高知県立埋蔵文化財センター 2F 平面図(S=1/800)

### 4. 利用方法等について

#### (1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

#### (2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

#### (3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(巡回展の期間は土・日曜日、祝祭日も開館、企画展2の期間は土曜日と公開講座等開催日は開館)

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所 〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel 代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax 代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

### Ⅲ 年間事業の概要

#### 1. 発掘調査事業

平成22年度に受託した発掘調査経費は402,673,369円で、昨年度より87,708,019円増加し、対前年度比では約28%の増加となった。受託件数、調査面積とも昨年度より減少した(表3, 図5)にも関わらず、発掘調査では遺構密度の極めて高い遺跡に当たったこと、整理作業では報告書が一斉に発行されたことなどが受託金額の増加に繋がったものと考えられる。

経費内訳は、国関係が366,476,250円(91.0%)、県関係が36,197,119円(9.0%)であり、国関係の占める割合は昨年度の68.8%から22.2ポイント上昇し、埋蔵文化財センターの運営が国事業で賄われているともいえる状況であった。今後の発掘調査予定からみてもこの状態が暫く続きそうである。

国関係では、土佐国道事務所関係の高知南国道路外(高知南国道路・南国安芸道路・高知西バイパス)、高知河川国道事務所の波介川河口導流事業及び高知法務局総合庁舎新営に伴う埋蔵文化財発掘調査業務の3業務を受託した。発掘調査は南国安芸道路を中心とした土佐国道事務所関係だけで、波介川河口導流事業に伴う上ノ村遺跡と北ノ丸遺跡、高知法務局総合庁舎新営に伴う西弘小路遺跡については整理作業のみであった。

高知南国道路外では平成15年度から始まった高知南国道路と南国安芸道路、平成19年度から着手した高知西バイパスがあり、高知南国道路では平成22年度に閑遺跡の残り、田村北遺跡の一部、田村西遺跡の調査を実施し、調査対象となった高知

表3 発掘調査推移表

年 度	受託件数	受託面積
平成3年度	16件	25,910㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	90,546㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,902㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	6,052㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,119㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
平成21年度	11件	34,500㎡
平成22年度	5件	29,831㎡
合 計	312件	808,095㎡

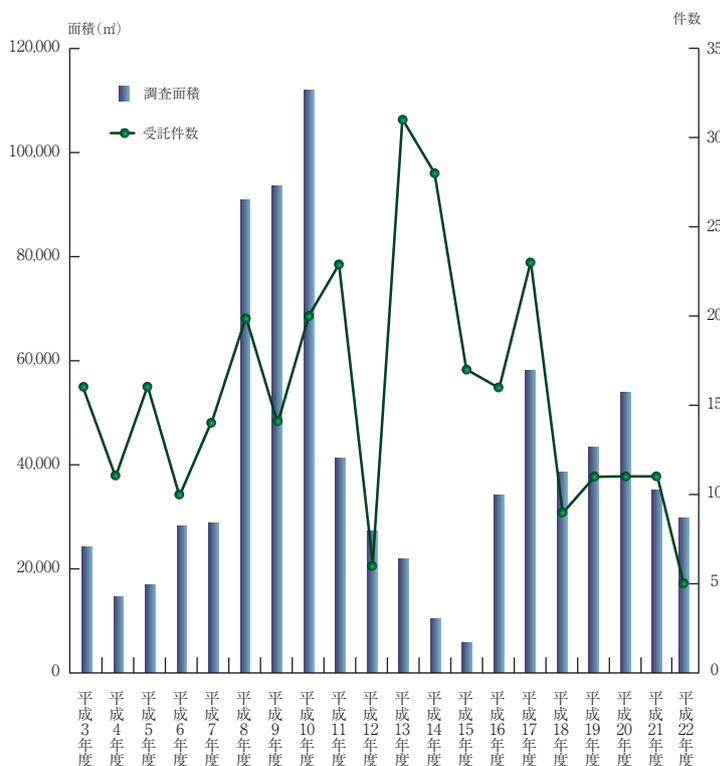


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

1. 発掘調査事業

南IC(仮称)から高知空港IC(仮称)までの区間で、調査が残っているのは田村北遺跡のみとなった。田村北遺跡は田村遺跡群の北側に当り、同時期の遺構遺物が確認されており、平成23・24年度に未調査部分の発掘調査を実施する計画で、平成25・26年度に整理作業を行い、高知南国道路関係の調査は終了する予定である。

南国安芸道路は、当面の調査対象となっている野市IC(仮称)から芸西西IC(仮称)間で残っているのが東野土居遺跡と徳王子広本遺跡の調査で、平成21年度から着手している東野土居遺跡では、最も遺構密度が高い香宗川左岸部分の調査を実施した。平成23年度に東野土居遺跡と徳王子広本遺跡の未調査部分の調査を行い当面の調査を終了する予定である。野市IC(仮称)からの高知空港IC(仮称)間の3.5kmは手付かずの状態であるが、発掘調査の必要性があるかどうかは高知県教育委員会の実施するであろう試掘調査の結果を待たなければならない。

一方、高知西バイパスは、枝川高架橋IC(仮称)から鎌田IC(仮称)間が当面の調査対象で、今後調査が予定されているのがバーガ森北斜面遺跡(三世庵・岩神地区)、西浦遺跡、天神溝田遺跡の一部で、平成22年度はバーガ森北斜面遺跡の三世庵地区の調査を行った。平成23年度には残りの調査を行い当面の調査を終了する予定である。

波介川河口導流事業は平成21年度までに発掘調査が最終し、平成22年度から本格的な整理作業を開始した。平成16年度から開始した発掘調査も平成23年度で整理作業がすべて終了する予定である。

高知法務局総合庁舎新営に伴う発掘調査を実施した西弘小路遺跡は、当面保存処理を必要とする木製品の点数が多いこともあり、平成22年度から2ヵ年をかけ報告書作成に向けた整理作業を予定している。

県関係では、土木関係と牧野植物園(林業振興・環境部)関係の2つがあり、受託経費では土木関係が

表4 平成22年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	事業者	原因	委託者
1	東野土居遺跡	10-1KH	香南市野市町 東野・土居	弥生 ～ 近世	集落跡	13,960	4/26 ～ 3/9	国交省	道路	県教委
2	関遺跡	10-2NS	南国市大埔乙	弥生 ・ 近世	集落跡	707	9/28 ～ 10/7	国交省	道路	県教委
3	田村北遺跡	10-3NT	南国市田村乙	弥生	集落跡	327	4/26 ～ 5/31	国交省	道路	県教委
4	田村西遺跡	10-4NTN	南国市大埔乙	弥生 ～ 近世	集落跡	8,700	5/26 ～ 1/28	国交省	道路	県教委
5	バーガ森北斜面 遺跡	10-5IB	吾川郡いの町 奥名・是友	弥生	集落跡	4,037	5/18 ～ 2/25	国交省	道路	県教委
6	徳王子大崎遺跡	10-6KO	香南市香我美町 徳王子字大崎	弥生 ・ 中世	集落跡	2,100	10/28 ～ 1/18	国交省	道路	県教委
合計						29,831				

遺跡名のNo.は、「IV 各遺跡の発掘調査概要」の遺跡の番号と同一である。

約96%を占めた。土木関係は高知県中央東土木事務所関連の事業で、平成19年度から着手し、平成21年度までの3年間発掘調査を実施した祈年遺跡<sup>(1)</sup>(土島田遺跡改め)の整理作業を開始した。牧野植物園関係は高知県教育委員会が平成20年度の試掘調査結果を受け、平成21年度に実施した発掘調査(竹林寺跡)の整理作業であり、「重点分野雇用創造埋蔵文化財発掘調査委託事業」として高知県(林業振興・環境部)から受託して行った。

平成22年度新たに受託した事業は牧野植物園関係の事業のみで、それ以外はいずれも過年度からの継続事業である。今後も一定継続されるとみられる事業もある一方、ゴールが見えてきている事業も多く、ここ数年で埋蔵文化財の様相が様変わりしそうである。換言すれば、組織の再編成が求められよう。

埋蔵文化財センターの体制(図2, 表2)は、2名減の正職員数は24名であった。内訳は考古専門職員が13名(県派遣5名, 財団職員6名, 嘱託職員2名), 県派遣の事務職員が3名, 派遣教員が8名である。組織構成は所長, 次長の下に総務課と調査課を置き, 総務課は総務課長1名, 主任1名, 契約職員2名, 調査課は調査課長(企画調整班長を兼務)の下に, 広報普及事業等を行う企画調整班, 発掘調査事業を行う調査第一班から調査第四班を置く。調査課の人員内訳は調査課長兼企画調整班長1名, 調査班長4名, 調査員15名(専門調査員8名, 主任調査員5名, 調査員2名), 契約職員3名であり, この内実質的に発掘調査を担当するのは考古専門職員10名, 派遣教員4名である。

調査課の業務分担は, 企画調整班が物品(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データバー

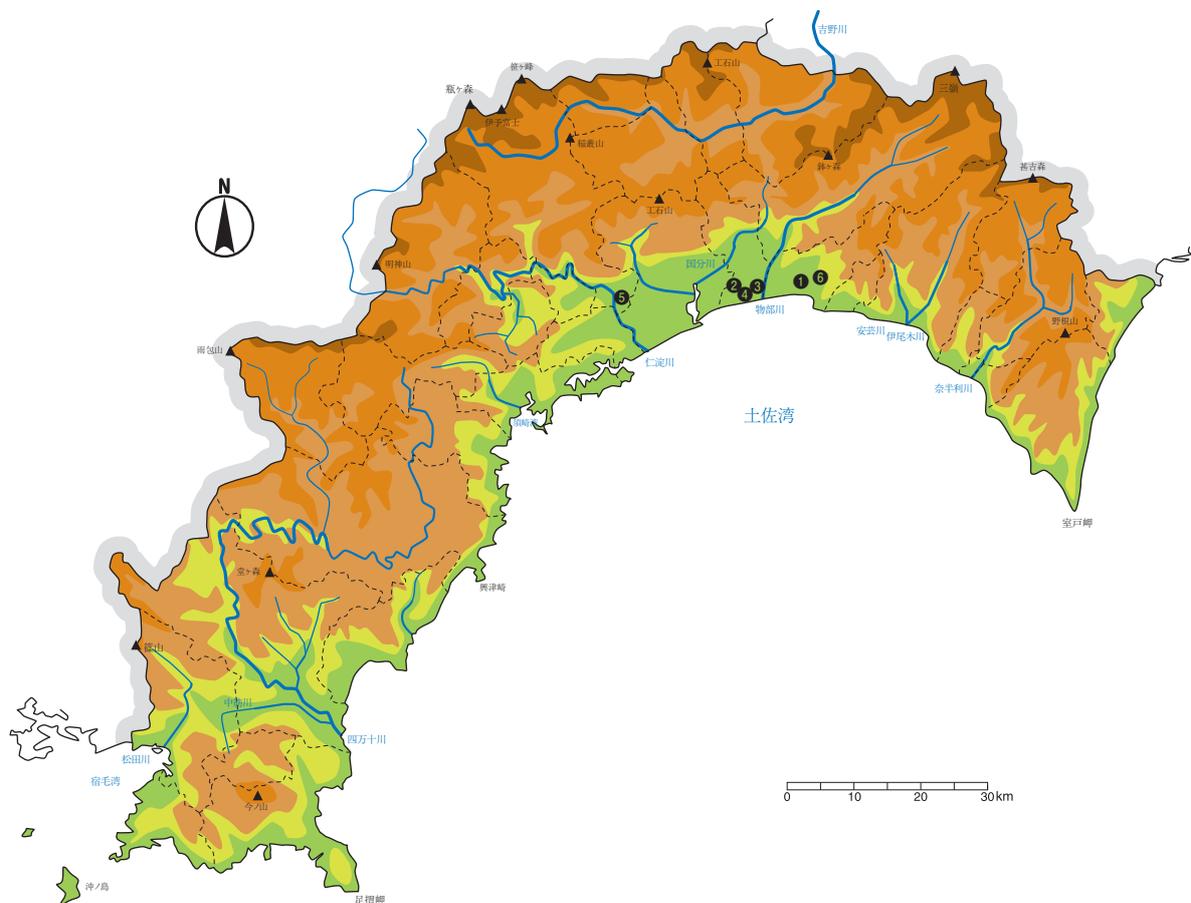


図6 平成22年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

## 1. 発掘調査事業

スの管理などの情報公開，企画展等の公開展示，各種講座の公開講座，出前考古学教室など指定管理による広報普及業務，調査第一班が県関係(県土木事務所)，調査第二班が高知西バイパス，調査第三班が高知河川国道事務所関係，法務局関係，牧野植物園関係，調査第四班が土佐国道事務所関係に関する事業であった。

### (1) 受託事業

平成22年度の受託事業件数は5件<sup>(2)</sup>で，発掘調査と整理作業の両方が1件，整理作業のみが4件であった。これを遺跡数で見ると，発掘調査が6遺跡，整理作業が15遺跡(内報告書を刊行した遺跡は6遺跡)の21遺跡となる。

調査面積は昨年度の約13.5%減の29,831㎡で，すべて国関係の発掘調査であった。平成22年度は，発掘調査を行った遺跡が6遺跡(表4，図6)，整理作業の内，報告書を刊行した遺跡が6遺跡(表5，図7)，基礎整理作業を行った遺跡が9遺跡であった。

受託先は高知県教育委員会と高知県であり，高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託3件，高知県からの受託事業には中央東土木事務所関係の祈年遺跡の整理作業に係る国道195号地域活力基盤創造交付金埋蔵文化財資料整理委託業務1件と林業振興・環境部の竹林寺跡の整理作業に係る重点分野雇用創造埋蔵文化財調査委託業務1件の計5件であった。

次に，各事業について具体的にみてみる。まず，高知県教育委員会から受託した国関係の内，高知南国道路外として契約し，平成16年度から継続されている東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路)と平成19年度から着手した高知西バイパスに伴う発掘調査・整理作業についてみる。高知南国道路では，田村北遺跡の一部，田村西遺跡，関遺跡の残りの発掘調査を行うと共に西野々遺跡の報告書作成を中心とした整理作業を行い，平成16～19年度に発掘調査した西野々遺跡の整理作業を終了した。田村北遺跡については試掘調査の結果，約30,000㎡が調査対象となっており，平成22年度は327㎡と限られた部分の調査で，平成23年度に約2,000㎡，そして平成24年度に残りの調査が

表5 平成22年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託先
1	西野々遺跡	05-2NN 06-2NN 07-2NN	南国市大埴字 西野々・竹中	弥生 ～ 近世	集落跡 官衙跡	H22.4/1 ～ H23.3/31	国交省	道路	県教委
2	花宴遺跡	05-16KH 06-1KH	香南市香我美町 徳王子字花宴	弥生	生産遺跡	H22.4/1 ～ H23.3/31	国交省	道路	県教委
3	北ノ丸・上ノ村 遺跡	07-8TK	土佐市新居字北ノ 丸・上ノ村	古墳	集落跡 祭祀跡	H22.4/1 ～ H23.3/31	国交省	河川	県教委
4	徳王子前島遺跡	07-16KM 08-10KM 09-10KM	香南市香我美町 徳王子字前島	弥生 ～ 中世	集落跡	H22.4/1 ～ H23.3/31	国交省	道路	県教委
5	西弘小路遺跡	09-7NK	高知市丸ノ内	古代 ～ 近代	集落跡	H22.4/1 ～ H23.3/31	法務省	庁舎	県教委
6	祈年遺跡 (土島田遺跡改め)	08-5NS 09-5NS	南国市小籠・東崎	弥生 ～ 古代	集落跡	H22.4/19 ～ H23.3/20	高知県	道路	高知県
7	竹林寺跡	07-17KT 08-12KT	高知市五台山	弥生 ～ 近世	寺院跡	H22.5/1 ～ H22.12/31	高知県	施設	高知県

予定されている。

南国安芸道路では、東野土居遺跡の本格的な発掘調査を行うと共に徳王子大崎遺跡の未調査部分の発掘調査を行った。東野土居遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代初めと古墳時代後期の集落跡を確認し、検出した竪穴建物跡は合わせて80軒に上り、出土遺物はコンテナケース600箱以上を数える。徳王子大崎遺跡の調査は平成20年度に次ぐ調査で、今回で予定の発掘調査が終了した。整理作業では平成17・18年度に発掘調査した花宴遺跡と平成20・21年度に発掘調査した徳王子前島遺跡の報告書作成作業を中心に行った。

高知西バイパスでは弥生時代の高地性集落遺跡として知られるバーガ森北斜面遺跡の調査に着手した。平成22年度は三世庵地区の調査で、丘陵谷部を中心に竪穴建物跡を5軒検出している。平成23年度には岩神地区の調査が予定されている。

次に、波介川河口導流事業に伴う委託事業では、上ノ村遺跡と北ノ丸遺跡が対象で、平成22年度から本格的な整理作業に入った。5分冊の報告書の刊行が予定されている上ノ村遺跡では、2分冊目が刊行され、平成23年度には3～5分冊の刊行が予定されている。

高知法務局総合庁舎新営に伴う西弘小路遺跡は平成22年度から2ヵ年計画で、整理作業を開始しており、順次木製品の保存処理も行っている。

県関係では、中央東土木事務所関係の祈年遺跡の整理作業を昨年度に引き続き行い、4分冊で刊行予定の報告書の内、1分冊目を刊行した。平成23年度に2・3分冊目、平成24年度に最後の4分冊目を

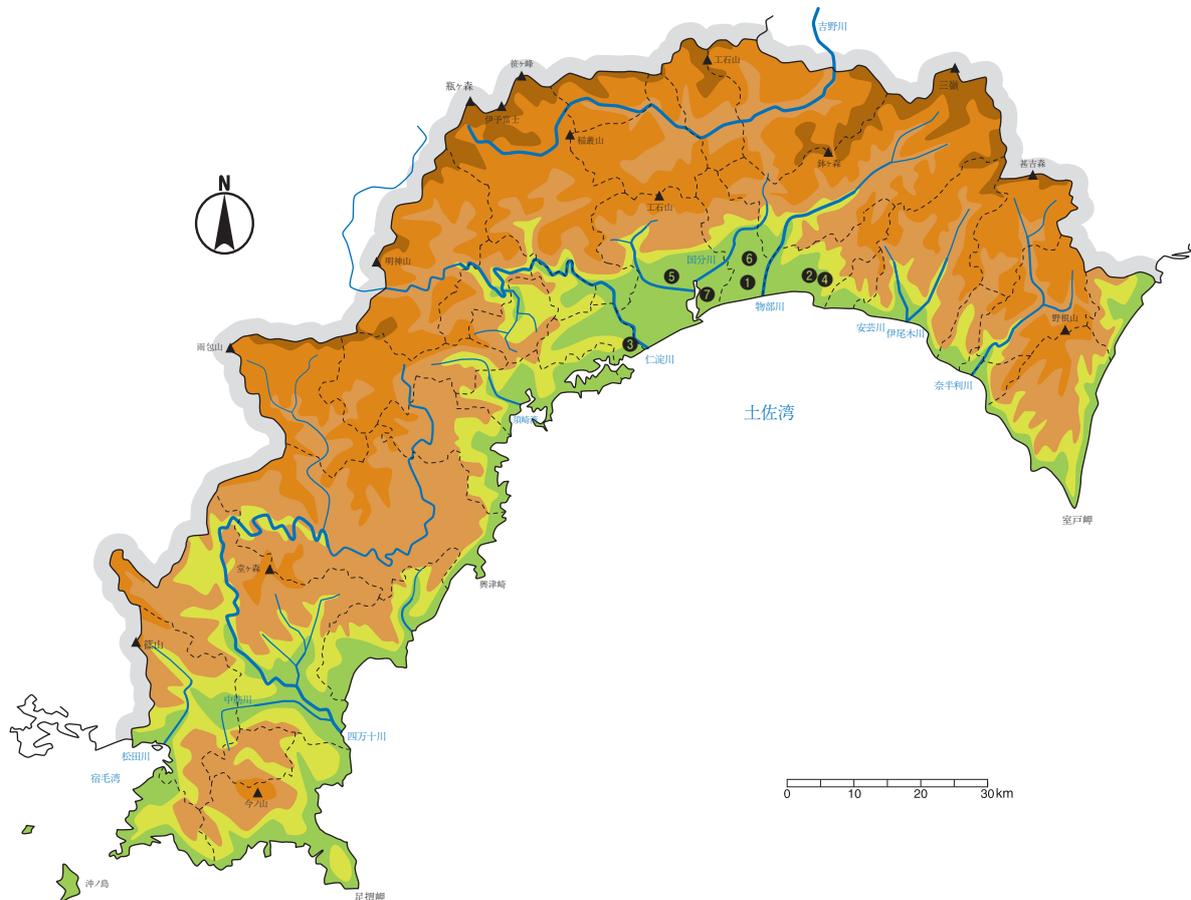


図7 平成22年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業)一覧表の番号と一致)

## 1. 発掘調査事業

刊行する予定である。林業振興・環境部から受託した竹林寺跡の整理作業は報告書を刊行して終了した。

以上、平成22年度の受託事業の概要を記したが、整理作業の比重が昨年度に増して高かった年度であった。特に、国関係では報告書の印刷経費が計上できたこともあり、懸案の報告書が刊行されたことが大きい。

一方、国土交通省関係の会計検査報告を受けた会計検査院長から国土交通大臣への10月26日付け「道路整備事業を行う国道事務所等及び地方公共団体が負担する埋蔵文化財の発掘調査費用の算定について」の是正改善の処置要求、それを受けての文化庁文化財部記念物課長から各都道府県教育委員会文化財行政主管課長への11月2日付け「道路整備事業における埋蔵文化財発掘調査費用の原因者負担範囲の明確化」の協力依頼、そして高知県教育委員会文化財課長から当埋蔵文化財センター長への適切な調査の実施についての12月13日付けの通知文書があり、平成23年1月から印刷発注する報告書については印刷部数が500冊から300冊に変更された。報告書部数のみでなく、教育委員会職員の給与負担など懸案事項も多く、埋蔵文化財を取り巻く環境はより一層厳しさを増している。

発掘調査では、今後の計画されている発掘調査を見越して県教育委員会に考古の専門職員が新たに3名採用されることになった。これによって、平成23年度に予定されている東野土居遺跡(調査対象面積32,140㎡)と弘人屋敷跡(新歴史資料館建設)の発掘調査の対応に一定の目処がたった。

### (2) 発掘調査報告書

平成22年度は平成21年度より1冊少ない7冊(第115～121集)の報告書を刊行(表6)した。一方、印刷経費は平成21年度が7,374,570円であったのに対し、平成22年度は頁数の多い報告書があったことにより、2,397,780円多い9,772,350円であった。中でも、国土交通省関係の報告書の印刷経費が認められ、懸案の『花宴遺跡』、『西野々遺跡Ⅱ』、『西野々遺跡Ⅲ』が刊行されたことが大きく、この3冊で全体の72.4%(7,070,700円)を占めた。

シリーズ順にみても、『花宴遺跡』は南国安芸道路建設に伴うもので、弥生時代の自然流路6条を中心とした生産遺跡で、後期後半から終末の自然流路より県内初の堰状遺構を検出すると共に木製の威儀具が出土している。『竹林寺跡』は県立牧野植物園南園再整備事業と温室建替えに伴うもので、平安時代末から鎌倉時代初めにかけての時期からその痕跡が確認され、江戸時代中期から幕末の遺物も出土している。『西野々遺跡Ⅱ』と『西野々遺跡Ⅲ』は高知南国道路に伴う西野々遺跡の調査成果をまとめたもので、2冊で1,140頁、シリーズ3冊を合わせると1,644頁に及ぶ。遺跡は、弥生時代中期から後期初めの集落跡、奈良時代から平安時代にかけての道路遺構を含む官衙関連遺構、室町時代の溝に囲繞された屋敷跡などに代表され、その内容は多岐に及ぶ。『徳王子前島遺跡』は南国安芸道路建設に伴うもので、古代から中世初めにかけての自然流路から人形や木簡を含む多数の木製品が土師質土器に混じって出土している。『上ノ村遺跡Ⅱ』は波介川河口導流事業に伴うもので、第2地点と第3地点拡張区の報告で、縄文時代晩期前半の無刻目突帯文土器や鹿児島産とみられる同期の玉類がまとまって出土している。『祈年遺跡Ⅰ』は国道195号道路改築に伴うもので、平成19・20年度に調査したⅠ～Ⅵ区の調査成果をまとめたもので、古代の官衙関連とみられる掘立柱建物跡群や道路遺構などが報告されている。

以上が、平成22年度に刊行した報告書の概要である。発掘調査が完了し、報告書を刊行しなければならない遺跡が9遺跡あるが、発掘調査を優先せざるを得ない状況もあり、限られた調査員では報告書刊行に至るまでの整理作業ができないのも現状である。

しかし、平成23年度以降も順次報告書を刊行して行く計画であり、調査中の遺跡も含め平成27年度までにはすべて刊行する予定となっている。

註

- (1) 改めて小字を調べたところ、「土島田」ではなく「土島田」であることが判明し、かつその範囲が限定されたものであることから遺跡の分布範囲に近い「祈年」（祈年神社に因む）の地名を遺跡名に採用して「土島田遺跡」から「祈年遺跡」に変更した。
- (2) 国関係事業については事務所単位の国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。土佐国道事務所関係では、高知南国道路外として高知南国道路（西野々遺跡、関遺跡、向山戦争遺跡、田村北遺跡、田村西遺跡）、南国安芸道路（花宴遺跡、徳王子前島遺跡、徳王子大崎遺跡、徳王子広本遺跡、坪井遺跡、東野土居遺跡）、高知西バイパス（天神溝田遺跡、貢山城跡、鎌田遺跡、城ヶ谷山遺跡、バーガ森北斜面遺跡）の発掘調査と整理作業を行い、高知河川国道事務所関係では、上ノ村遺跡と北ノ丸遺跡の整理作業を行った。高知法務局総合庁舎新営に伴う西弘小路遺跡の整理作業についても国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。よって、国関係の受託契約は3件となる。

県関係は前述のとおり、土木関係1件（祈年遺跡）と牧野植物園関係1件（竹林寺跡）の2件となり、平成22年度に発掘調査関係で受託した件数の合計は5件であった。

表6 平成22年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第115集	花宴遺跡 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ)	香南市香我美町 徳王子字花宴	廣田佳久, 下村裕, 小野由香, パリノ・ サーヴェイ
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第116集	竹林寺跡 県立牧野植物園南園再整備事業及び温室建替え に伴う埋蔵文化財試掘・発掘調査報告書	高知市五台山	池澤俊幸, 弘田和司
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第117集	西野々遺跡Ⅱ 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ)	南国市大桶 字西野々・竹中	廣田佳久, 曾我貴行, 小野由香, パリノ・ サーヴェイ
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第118集	西野々遺跡Ⅲ 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ)	南国市大桶 字西野々・竹中	廣田佳久, 小野由香, 井上昌紀, パリノ・ サーヴェイ
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第119集	徳王子前島遺跡 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ)	香南市香我美町 徳王子字前島	島内洋二, パリノ・ サーヴェイ
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第120集	上ノ村遺跡Ⅱ 波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書Ⅲ	土佐市新居字 上ノ村	出原恵三, 松本安紀 彦
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第121集	祈年遺跡Ⅰ 国道195号道路改築に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書第1分冊 I区～Ⅵ区	南国市東崎他	松本安紀彦, 前田光 雄, 近藤孝文

## 2. 指定管理事業

平成22年度は(財)高知県文化財団として平成24年度までの3年間の指定管理者になり、高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行った。年間4回の展示会、60本の公開講座、66校への出前考古学教室、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開など広報普及事業に取り組んだ。

入館者(表7)は指定管理業務を行うようになって2年目の平成19年度には埋蔵文化財センターを開設以来初めて2,000人を突破し、3年目の平成20年度は2,500人を超え、平成21年度は2,866人の入館者を数え、平成22年度は過年度の増加率と平成21年度の入館者を基に入館者目標を3,000人に設定して取り組んだが、残念ながら184人及ばず、対前年度比は2%減となってしまった。その要因として、後述するが団体見学の減少(対前年度比26%減)を指摘できる。このような中で、何とか昨年度並みの入館者数を維持できたのは、親子考古学教室の開催回数を昨年度より8回増やし、昨年度同様「掘りゆうぜよ高知2010 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを県内の小学生全員に配布し、周知を図ったことが挙げられる。インターネットが普及し、一般化したとはいえ、周知を図る手段としてチラシが有効であること、「勾玉づくり」や「火起こし」などの体験教室がニーズに合っていることを示す結果を平成22年度も得られた。その反面、親子考古学教室の開催回数の増加が入館者数に大きく影響している。換言すれば、親子考古学教室の開催回数の増加が入館者数の増加に繋がっており、平成22年度は入館者数の4割を占めるに至った(図8)。できれば展示に伴う入館者を増やしたいのではあるが、親子考古学教室が会期中に開催される巡回展以外はほぼ横這い状態で、目立った増加はみられない。

このことは、親子考古学教室が埋蔵文化財センターの入館者を左右しているとも言える。現状では、親子考古学教室の開催回数には限り



写真1 年間行事カレンダー

表7 入館者推移表と平成22年度の入館者

年度	合計	内訳(人数)								入館者数内訳		
		常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	速報展	特別展	その他	子供	大人	展示報告・解説
H13年度	811	811	-	-	-	-	-	-	-	487	324	-
H14年度	821	177	-	644	-	-	-	-	-	493	328	-
H15年度	1,171	468	-	703	-	-	-	-	-	703	468	20
H16年度	1,522	402	802	319	-	-	-	-	-	913	609	-
H17年度	1,180	300	537	342	-	-	-	-	-	708	472	-
H18年度	1,555	504	449	-	-	-	482	-	120	582	973	47
H19年度	2,182	392	809	501	-	-	-	333	147	348	1,834	87
H20年度	2,561	-	1,224	-	451	328	-	253	305	740	1,821	147
H21年度	2,866	-	1,417	-	508	388	-	363	190	905	1,961	170
H22年度	2,816	-	1,558	-	347	331	-	383	197	1,019	1,797	104
合計	17,485	3,054	6,796	2,509	1,306	1,047	482	1,332	959	6,898	10,587	575
平均	1,749	436	971	502	435	349	482	333	192	690	1,059	96

があることから、入館者数の増加には必然的に限界があるように思われる。

今後、入館者数を恒常的に増やして行くには、展示会の入館者を増やすことが求められるものの、前述のように小学校など団体見学の招致が重要なポイントとなっよう。

月別の入館者数をみてみると、例年どおり夏休み期間である8月が圧倒的に多く、入館者の少ない月(4月：34人)の約34倍、月平均(約235人)の約5倍であった。また、平成21年度は、入館者数が2桁の月

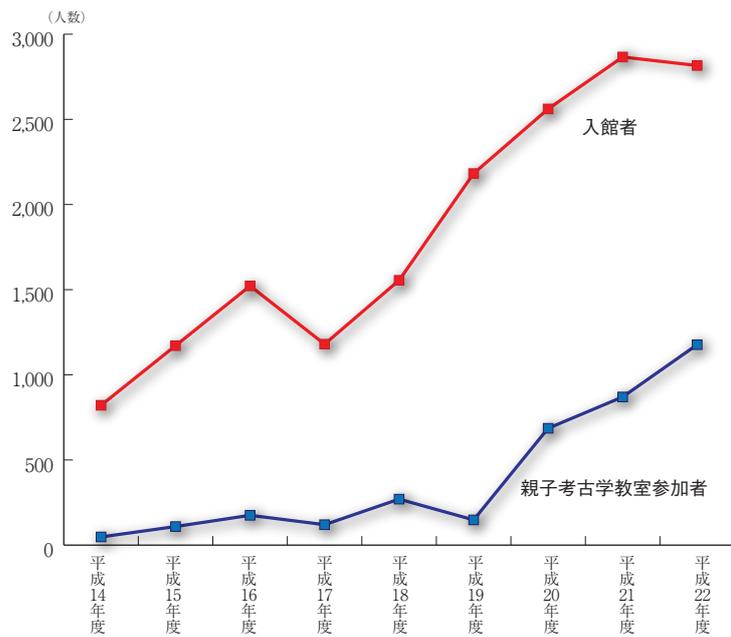


図8 入館者に占める親子考古学教室の割合

はなかったが、平成22年度は年度初めの展示準備期間である4月と展示が終了する年度末の3月は少なく2桁台の入館者となり、平成20年度以前に戻ってしまった感がある。また、県外からの入館者数は111人で、入館者総数の約4%に当たり、昨年度より8人少なくなったものの、ほぼ例年並みと言える。

前述のとおり、親子考古学教室の一定回数開催と団体見学の招致が入館者の増加に直結しているが、それ以外に、ボランティアなどの支援者の確保も重要であろう。支援者を増やすことでよりニーズにあった講座も見出せるのではなかろうか。さらに、文化庁の補助金を利用した体験学習器具等の整備も講座の充実、そして、参加者の増員に繋がるものと思われ、今後、県の積極的な協力も欠かせないのではなかろうか。

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開し、埋蔵文化財保護の推進及び普及啓発を図ると共に県民文化の振興に寄与することを目的として、年4回の展示会を開催した。なお、高知県立埋蔵文化財センターには展示室が1室のみであり、常設展示は行っていない。展示構成は、例年通り第1回を企画展1として「考古資料からみた高知県の歴史」と題した通史的な展示、第2回を四国地区埋蔵文化財センター巡回展である第2回「続・発掘へんろ」、第3回を企画展2として都市計画道路高知山田線に伴う発掘調査の成果について展示した「道路開発であらわれた遺跡展Ⅳ」、第4回を特別展とし、「土佐の古墳」についての土佐型埴輪を中心に展示を行った。各展示会では展示報告会と展示解説会を各1回、特別展では特別記念講演会を開催した。この内、巡回展、企画展2、特別展については報道機関に後援を依頼し、告知放送をお願いした。



写真2 展示報告会

## 2. 指定管理事業

### ① 企画展1

「考古資料からみた高知県の歴史」と題した企画展で、旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財センターに所蔵する発掘調査で得られた出土文化財を展示することで、高知県の歴史を概観できるように心掛けた。また、観覧の便を供するために展示解説シートを作成した。会期は4月20日～6月25日までの50日間(休館日の土・日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等開催日は開館)で、5月8日(土)に展示報告会、6月12日(土)に展示解説会を開催し、報告会には16人、解説会には5人の参加があった。入館者数は347人で、対前年度比は32%減(表7・11)であった。

### ② 四国地区埋蔵文化財センター巡回展 第2回 「続・発掘へんろ」

四国四県の埋蔵文化財センターの共同企画展で、一昨年度まで実施した「発掘へんろ」が各埋蔵文化財センターを一巡したことから、平成21年度より5ヵ年計画で「続・発掘へんろ」と名称を改め開催することとなり、今回がその第2回となる。「四国の弥生時代」にスポットを当て展示すると共に、速報展として各埋蔵文化財センターが実施した近年の弥生時代の遺跡の発掘調査成果も展示した。また、今回は土器の移動に注目し、東大阪市瓜生堂遺跡から出土した四国の土器を大阪府立弥生文化博物館と共催して展示した。さらに、四国各県の弥生時代の発掘調査状況について、大阪府立弥生文化博物館で講演し、四国との繋がりを大阪の方に紹介することができた。会期は7月5日から8月31日までの58日間(休館日なし)で、入館者は1,558人あり、対前年度比は10%増であった。展示報告会(12人)や展示解説会(4人)の参加者(表7・11)は少なかったものの7・8月の夏休み期間に開催した親子考古学教室を中心に多くの入館者があった。

### ③ 企画展2

平成19年度から5ヵ年計画で実施している道路開発に関係して発掘調査を行った遺跡の企画展で、本年度は「道路開発であらわれた遺跡展Ⅳ」-都市計画道路高知山田線に伴う発掘成果から-について9月28日から11月27日の50日間の会期(休館日の日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等開催日は開館)で開催し、10月2日(土)に展示報告会、11月6日(土)に展示解説会を開催し、報告会には14人、解説会には18人の参加があった。展示では、伏原遺跡とひびのきサウジ遺跡から出土した弥生時代後期後半から終末期の土器や石器、搬入土器、古墳時代後期の土師器や須恵器、耳環、勾玉などを列品し、調査した多角形堅穴建物跡などの写真等も掲示し、遺跡の様子を概観して頂いた。会期中の入館者は331人で、対前年比は15%減(表7・11)であった。



写真3 第2回 続・発掘へんろポスター



写真4 企画展2ポスター



2. 指定管理事業

参加総数は80人で前年度比は19%減(表9)であった。毎回参加してくれる方もいる一方、座学的様相が強い、ある意味専門的な講座であり、参加者を増やすのはなかなか難しい。また、近年他館でも各種講座を行っており、開催日が重なったりして、参加者が20名を切る講座(表11)もあった。

表8 平成22年度考古学講座

開催日	内容	担当者
第1回(平成22年5月22日)	旧石器時代	坂本憲昭
第2回(平成22年7月17日)	縄文時代	久家隆芳
第3回(平成22年11月20日)	弥生時代	徳平涼子
第4回(平成23年1月29日)	古墳時代	筒井三菜

今後は、関心を引くテーマを設け、かつ遺物を実見してもらう機会を増やし、視聴覚機器を多用するなどの工夫もしなければならないと思われる。また、一昨年度からプロパー職員に担当してもらっているが、単なる解説的なものではなく、自分の研究成果を披露する場として積極的に参加する必要がある。

② 発掘調査報告会

埋蔵文化財センターが実施した近年の発掘調査の内、注目された4遺跡の発掘調査を取り上げ、検出遺構など発掘調査の際の写真を変えながら、平易に解説すると共に出土遺物も実見してもらいより一層遺跡について理解を深めて頂いた。午後1時30分から3時までの90分の講座で、年4回(表10)、埋蔵文化財センターで開催した。参加総数は137人で、31



写真7 発掘調査報告会

表9 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		親子考古学教室	考古学講座	発掘調査報告会	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会 発掘現場見学会	授業にいかせる考古学教室
平成13年度	-	-	-	-	-	-	-
平成14年度	48	48	-	-	-	-	-
平成15年度	109	109	-	-	-	-	-
平成16年度	175	175	-	-	-	-	-
平成17年度	120	120	-	-	-	-	-
平成18年度	431	270	136 (54)	-	-	25	-
平成19年度	446	148	110 (75)	138	35	6	9
平成20年度	1,122	686	83 (47)	173	148	22	10
平成21年度	1,187	870	99 (29)	106	89	17	6
平成22年度	1,499	1,177	80 (21)	137	67	31	7
合計	5,137	3,603	508 (226)	554	339	101	32
平均	571	400	102 (45)	139	85	20	8

※ 考古学講座の( )内人数はセンター以外(四万十市・南国市)での参加人数

人増加し、対前年度比は29%増(表9・11)であった。発掘調査に参加してくれた作業員の方の参加が目立ち、遺跡の内容をより詳しく知って頂いたのではないかと思われる。また、直近の発掘調査の報告会に多くの人に参加してくれる傾向がみられた。

③ 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある夏休み期間中に開催する講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子による体験型講座である。

平成20年度に県内の小学生全員に「掘りゆうぜよ高知2008 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを配付したところ、予想以上の反響があり、毎年追加開催していることから平成22年度は当初から15日間の午前と午後の計30回(定員各約40人)の開催(表12)とし、6月にチラシを配付した。

平成22年度も申し込み日には応募が殺到し、8月上旬には予定していた1,200人の定員がほぼ埋まってしまう人気であった。職員だけでは、十分な対応ができないことからボランティアにも協力してもらった。

講座は、2時間30分で、「勾玉づくり」では、まず、「勾玉の神秘」と題するスライドで勾玉の歴史について説明した上で、スライドにあった実際の勾玉を参考に滑石で勾玉を作ってもらった。火起こし体験では、実演した上で、「マイギリ式」による火起こしを行ってもらい、着火に成功した親子には「キリモミ式」にも挑戦してもらった。参加人員は1,177人(内訳大人488人、子供689人)で、開催回数を増やしたことから対前年度比は35%増(表9)となった。公開講座中では参加者が最も多い講座であると共に子供が考古学と出会う講座でもある。

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の先生に考古学へ関心を持って頂くために平成19年度から企画したもので、高知県教育委員会の教職員研修等案内に掲載して頂くと共に、県内各校に案内メールを送信して募集を行った。開催は夏休み期間を利用して2回(8月3日(火)・8月24日(水))実施した。内容は、考古学概説や発掘調査現場体験、火起こし、勾玉づくり体験であった。天候に恵まれ、参加者には非常に好評であったものの、参加者は1回目が6人、2回目が1人の合計7人で、昨年よりも1名増えたのみで(表9・11)、全体に低調であった。以前のアンケートの中に、講座

表10 平成22年度発掘調査報告会

開催日	内容	担当者
第1回(平成22年6月19日)	香南市徳王子前島遺跡	島内洋二
第2回(平成22年9月4日)	香南市東野土居遺跡	下村 裕
第3回(平成22年10月23日)	高知市西弘小路遺跡	池澤俊幸
第4回(平成22年12月4日)	南国市関遺跡	久家隆芳



写真8 掘りゆうぜよ高知2010



写真9 親子考古学教室

## 2. 指定管理事業

名が取っ付きにくいとの意見があり、平成21年度から講座名を変更して募集しているが、大きな効果が出ていないようである。また、一方では他の公的な行事と重複していることも考えられる。

### ⑤ 古代ものづくり体験教室

平成19年度から企画した講座(1回:2時間)で、ガラス玉づくりを中心に応募が多いことから平成22年度は、当初から「勾玉づくり」2回、「ガラス玉づくり」8回の計10回開催することとし、昨年度までは早い時期から申し込みを受付けていたが、忘れる方がいることから開催1ヵ月前からの募集とした。「ガラス玉づくり」の開催時期については、バーナーを使用することから気温の低くなる11月以降に設定した。



写真10 古代ものづくり体験教室

参加総数は67人で、対前年度比は22人少ない25%減(表9・11)であった。少なくなった理由は「ガラス玉づくり」の定員が10名/回であることが関係しているものと考えられる。

この講座の特徴は、女性の参加者が目立つことで、中でも「ガラス玉づくり」はその大半が女性であった。また、「ガラス玉づくり」は慣れを要する面もあることから初めての参加ではなかなか思ったものが作れない内に終わってしまうこともあり、2回以上参加してくれるリピーターの方も複数いらっしゃった。

### ⑥ 発掘現場見学会

埋蔵文化財センターが実施している発掘調査中の現場を調査員が案内し、遺跡の概要を解説するもので、本年度は高知西バイパス建設に伴って発掘調査を行っているバーガ森北斜面遺跡で10月20日(水)に開催し、昨年度より14人多い31人の参加(表9・11)があった。



写真11 発掘現場見学会

### (3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開事業として、インターネット上のホームページの管理更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告書及び展示

パンフレット、広報用資料などをPDFにより電子データとして公開している。現地説明会資料など新たな出版物を随時追加更新しており、インターネットを介して、最新のデータを閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料の公開活用を大きく進めることができた。全国的にも利便性のあるコンテンツであると思われる。

また、埋蔵文化財センターの活動記録として平成21年度の業務実施内容をまとめた『年報第19号』と埋蔵文化財センター二十周年を記念した『二十年の歩み』を発刊した。

表11 平成22年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者		
企画展1(4月20日～6月25日)			考古学講座		発掘調査報告会			
展示報告会	5月8日(土)	16人	1	5月22日(土)	14人	1	6月19日(土)	33人
展示解説会	6月12日(土)	5人	2	7月17日(土)	21人	2	9月4日(土)	51人
巡回展(7月5日～8月31日)			3	11月20日(土)	17人	3	10月23日(土)	21人
展示報告会	7月10日(土)	12人	4	1月29日(土)	28人	4	12月4日(土)	32人
展示解説会	8月7日(土)	4人	古代ものづくり体験教室		授業にいかせる考古学教室			
企画展2(9月28日～11月27日)			1	5月29日(土)	10人	1	8月3日(火)	6人
展示報告会	10月2日(土)	14人	2	11月27日(土)	15人	2	8月24日(火)	1人
展示解説会	11月6日(土)	18人	3	12月18日(土)	8人	発掘現場見学会		
特別展(12月24日～3月18日)			4	1月15日(土)	17人	10月20日(水)		31人
展示報告会	12月25日(土)	17人	5	2月19日(土)	17人			
記念講演会	2月6日(日)	58人						
展示解説会	3月5日(土)	18人						

表12 平成22年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
7月27日(火)	13人	23人	17人	26人	79人	8月15日(日)	17人	21人	14人	22人	74人
7月29日(木)	17人	23人	16人	24人	80人	8月16日(月)	13人	21人	16人	27人	77人
7月31日(土)	18人	23人	16人	24人	81人	8月17日(火)	13人	19人	17人	22人	71人
8月1日(日)	21人	22人	14人	23人	80人	8月19日(木)	16人	26人	18人	23人	83人
8月4日(水)	15人	26人	19人	25人	85人	8月20日(金)	12人	21人	17人	20人	70人
8月5日(木)	18人	24人	15人	21人	78人	8月21日(土)	17人	25人	19人	24人	85人
8月8日(日)	15人	24人	17人	24人	80人	8月22日(日)	17人	21人	15人	23人	76人
8月14日(土)	14人	16人	22人	26人	78人	計	105人	154人	116人	161人	536人
計	131人	181人	136人	193人	641人	合計	236人	335人	252人	354人	1,177人

① ホームページ

平成19年度にリニューアルし、引き続き同じテンプレートを平成22年度版に更新すると共により見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況等は随時更新して、情報提供を行った。アクセス数は1日20～30件であった。

(財)高知県埋蔵文化財センター URL : <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

② Web公開データベース

高知県立埋蔵文化財センターの情報管理室に設置したWeb公開サーバーに埋蔵文化財情報管理システムと報告書PDFを置き、一般公開している。埋蔵文化財情報管理システムでは遺跡情報管理(遺跡台帳でPDF化した報告書があるものはそれにリンク)、収蔵図書情報管理(図書台帳)、県内発掘調査情報管理(県内の発掘報告書抄録)を掲載している。報告書PDFは名前のとおり、PDF化した報告書

2. 指定管理事業

等のデータを掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報や現地説明会資料を一般公開している。いずれも、随時更新しており、平成22年度は前述の7冊の報告書と年報第19号及び現地説明会資料を新たに掲載した(表14)。また、複数の報告書を刊行している遺跡については、遺跡の紹介から関係報告書にアクセスできるように改良した。

PDFデータは一括ダウンロードとデータ量によっては分割ダウンロードもできるようにしており、利用者の便を図っている。

Web公開データベースURL：<http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>



写真12 ホームページ

表13 平成22年度物品(県有物)貸出一覧

No.	期間	依頼者	内容	備考
1	H22.4.1～H23.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展示	
2	H22.4.1～H23.3.31	愛知県陶磁資料館	常設展示	
3	H22.4.1～H23.3.31	高知大学 清家章	考古学実習の資料	考古学研究室での実習
4	H22.4.1～H23.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展示	
5	H22.4.2～H23.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展示	
6	H22.4.7～H23.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展示	
7	H22.4.9～4.20	高知市立潮江中学校	社会科の教材	
8	H22.4.13～4.30	佐川町立黒岩中学校	社会科の教材	
9	H22.4.21～4.28	高知市立朝倉第二小学校	社会科の教材	
10	H22.5.20～6.25	高知市教育委員会	春野郷土資料館展示	
11	H22.5.27～6.29	佐川町立黒岩中学校	社会科の教材	
12	H22.5.29	四国製塩土器検討会	製塩土器の研究のため	センター内での遺物実見
13	H22.6.11～7.18	佐川町立黒岩中学校	社会科の教材	
14	H22.6.12～6.21	高知市立春野中学校	社会科の教材	
15	H22.6.14～7.16	宇和島市教育委員会	展示	
16	H22.8.2～9.30	高知市総務部総合政策課	遺物実測	
17	H22.9.7	四万十市教育委員会	資料調査	センター内での遺物実見
18	H22.9.13～9.15	九州大学考古学研究室	修士論文作成	センター内での遺物実見
19	H22.10.6～10.25	佐川町立黒岩中学校	社会科の教材	
20	H22.10.6～12.7	(社)徳島市シルバー人材センター	特別企画展での展示	徳島市立考古資料館
21	H22.11.13	長野県埋蔵文化財センター	考古学調査・研修	センター内での遺物実見
22	H22.12.1～12.7	高知県教育委員会	展示	
23	H22.12.8～12.10	大豊町立大豊町中学校	社会科の教材	
24	H23.2.25	別府大学 橘昌信	考古学調査・研究	センター内での遺物実見
25	H23.3.2～3.7	南国市立大篠小学校	歴史教材	
26	H23.3.11	北海道大学 高倉純	研究論文作成	センター内での遺物実見

表14 平成22年度Web公開した報告書等

掲載物	種類	掲載形式	データ量	分割数	発行年月日
花宴遺跡	発掘調査報告書	PDF	44.6MB	3分割	2010.12.24
竹林寺跡	〃	〃	25.3MB	2分割	2010.12.24
西野々遺跡Ⅱ	〃	〃	44.6MB	6分割	2011.1.21
西野々遺跡Ⅲ－本文編	〃	〃	67.7MB	5分割	2011.3.11
西野々遺跡Ⅲ－図版編	〃	〃	67.3MB	4分割	2011.3.11
徳王子前島遺跡	〃	〃	28.9MB	3分割	2011.3.18
上ノ村遺跡Ⅱ	〃	〃	41.4MB	4分割	2011.3.18
祈年遺跡Ⅰ	〃	〃	42.8MB	4分割	2011.3.22
年報第19号(平成21年度実績)	年報	〃	4.3MB	－	2010.7.9
第2回 続・発掘へんろ	パンフレット	〃	7.1MB	－	2010.7.2
東野土居遺跡	記者発表・現地説明会資料	〃	1.1MB	－	2010.10.24
バーガ森北斜面遺跡	〃	〃	2.6MB	－	2011.2.19
東野土居遺跡	〃	〃	1.5MB	－	2011.2.20

### ③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に則り、迅速かつ適切に管理と貸出を行い、交換図書として寄贈された報告書等も随時登録し、Web公開して一般の方に情報提供している。

なお、収蔵庫で管理している出土文化財についてはデータベース化し、埋蔵文化財センターのイントラネットで検索できるシステムとしている。

平成22年度の物品(県有物)等の貸出は26件で、うち他施設等への貸出は20件、残りの6件はセンター内での実見・実測であった(表13)。

### ④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても受け入れており、平成22年度は18件の団体見学の受け入れを行った(表15)。件数は埋蔵文化財センターの施設見学が14件、現場見学が4件で、全体で昨年度より12件、301人少なく、対前年度比は38%減であった。前述のとおりこれが入館者目標を達成できなかった大きな要因と考えられる。

本年度の特徴は、中学校を中心とした職場体験学習(職場実習も含む)が7件と埋蔵文化財センターへ訪れた団体件数の半分を占めていた点である。中学校で職場体験学習が取り入れられていることがその背景にはあろうが、発掘調査の整理作業を行っている事業所として高知県立埋蔵文化財センターが周知されるようになったことが職業体験の場を選択された大きな要因と考えられる。また、発掘調査を実施している地域では、小学校やこども会などが現場見学に来て頂いた。



写真13 施設見学

2. 指定管理事業

表15 平成22年度施設等見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容
1	高知市立潮江小学校	H22.5.6	66	3	69	展示見学, 館内見学
2	土佐くろしお鉄道株式会社	H22.5.8	73		73	展示見学
3	高知市立三里中学校	H22.5.12～14	5	1	6	職場体験学習
4	特定非営利活動法人 東アジアの古代文化を考える会	H22.6.8	14		14	展示見学, 館内見学
5	香南市立赤岡小学校	H22.6.17	20	2	22	現場見学(東野土居遺跡)
6	お絵かき教室ガネーシャ	H22.7.19	7	5	12	展示見学, 体験学習(勾玉づくり)
7	南国市文化とスポーツNPO	H22.7.30	20	2	22	現場見学(東野土居遺跡)
8	南国市教育研究所	H22.8.2	23	5	28	体験学習(勾玉づくり)
9	京都造形芸術大学	H22.8.6	2		2	展示見学, 館内見学
10	南国市教育委員会	H22.8.8	11	3	14	体験学習(火起こし, 勾玉づくり)
11	デイサービスセンター樹蔭	H22.8.16	18		18	展示見学
12	南国市文化とスポーツNPO	H22.8.29	18	10	28	体験学習(土器づくり)
13	いの町立伊野南小学校	H22.10.26	57	3	60	現場見学(バーガ森北斜面遺跡)
14	土佐町立土佐町小学校	H22.11.5	63	6	69	展示見学, 体験学習 (火起こし, 勾玉づくり)
15	馬路村立馬路小学校	H22.12.9	12	2	14	展示見学, 館内見学
16	南国市立北陵中学校	H23.2.2～4	5	1	6	職場体験学習
17	伊野町子ども会連合会	H23.2.6	21	12	33	現場見学(バーガ森北斜面遺跡)
18	高知市立三里中学校	H23.2.16	5	1	6	職業調べ学習
合計			440	56	496	

埋蔵文化財センターでは、考古学に関連する実習や研修を受け入れる体制を取っているものの、年度によって申し込みの増減がみられることから、今後は日頃から機会がある度アナウンスすることが重要であろう。

(4) 出前考古学教室

広報普及事業の中核をなし、平成10年度に南国市内を対象に試行事業として開始してから本年度で13回を数える。指定管理者となった平成18年度から実施回数を増やしたこともあり、申し込み校が年々増加し、平成22年度は指定管理者となって初めて100校を越え、108校の申し込みがあった。それに可能な限り応えるべく平成21年度と比べ、実施回数を17回、実施校を13校増やし実施した(表16)。

① 概要

例年どおり、前年度末に実施校を決定した上で、4月に各学校の担当と実施日の時間帯や準備などについて電話等により打合せを行った。平成18年度以前は4月に実施校に出向き事前の打合せを行っていたが、カーナビゲーションの導入等により電話等により事前打合せを行うこととし、経費削減に繋がっている。

事業は、大きく前期(5月～7月)と後期(10月～2月)に分け、前期については市町村教育委員会を通じて希望を取り、過去の実施実績、学校規模、地域性等を考慮して実施校32校を決定し、5月6日から7月16日にかけて32回行った。

後期については新年度以降に受付を開始し、前期に実施できなかった学校など34校を決定して、10月4日から2月22日まで33回(合同を含む)実施した。平成22年度の後期は、昨年度のような新型インフルエンザの流行もなく、申し込みが前年度の倍近い33校からあった。

前期及び後期を併せた参加生徒総数は、授業生徒数(展示・体験学習にも参加)が2,470人、展示・体験学習等のみの生徒数が101人の2,571人であった。

また、平成17年度から県民参加による地域との連携を深めるためボランティアを導入しており、平成22年度は10名の方にボランティアを委嘱し、協力をお願いした。延べ参加人数は27人であった。

#### i 前期

前期は32回・32校で実施した。授業を受けた児童生徒は1,166人、見学のみの児童生徒96人を含めると1,262人を数える。4月初旬から下旬にかけて電話とFAXで、実施日の時間帯や授業・体験学習の内容について打ち合わせを行った。そして5月6日の高知市立鴨田小学校を皮切りに7月16日の中土佐町立上ノ加江小学校までの32校で実施した(表17)。

#### ii 後期

後期は33回・34校(本山・吉野小は合同)で実施した。授業を受けた児童生徒は1,304人、見学のみの児童生徒5人を含めると1,309人を数える。後期は1学期の終業式に合わせ、7月下旬に電話での打ち合わせ日時の確認を行い、8月下旬から9月上旬にかけて各校との打ち合わせ(実施日の確認・実施内容の検討)を始めた。そして10月4日の土佐市立宇佐小学校を皮切りに2月22日の高知市立高須小学

表16 平成10～22年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学年	申込件数	実施回数	参加校数	実施期間	授業生徒数	参加生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8件	8回	8校	前半/試行	450人	450人
2	平成11年度	南国市	小・中学校	10件	10回	10校	前半	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	35件	28回	40校	前半	1,352人	3,789人
4	平成13年度	全県下	小学校	26件	26回	27校	前半	1,060人	2,233人
5	平成14年度	全県下	小学校	27件	27回	31校	前半	944人	2,541人
6	平成15年度	全県下	小学校	30件	29回	31校	前半	1,232人	2,121人
7	平成16年度	全県下	小学校	38件	31回	41校	前半	1,083人	1,083人
8	平成17年度	全県下	小学校	65件	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	全県下	小学校	50件	51回	60校	前・後	1,772人	1,703人
10	平成19年度	全県下	小・中学校	63件	51回	69校	前・後	2,058人	2,467人
11	平成20年度	全県下	小・中学校	77件	52回	64校	前・後	1,688人	2,088人
12	平成21年度	全県下	小・中学校	75件	48回	53校	前・後	1,369人	1,438人
13	平成22年度	全県下	小・中学校・高校	108件	65回	66校	前・後	2,470人	2,571人
合計				612件	459回	534校		17,032人	25,269人

## 2. 指定管理事業

校までの34校で実施した(表18)。

### ② 内容

出前考古学教室の内容は、大別すると「授業」・「体験学習」の2つから構成される。「授業」は各時代の特徴を踏まえつつ、高知県の各地域(主に身近な地域)の遺跡との関連性を捉えながら行うこととし、「体験学習」は火起こし・勾玉づくり等が含まれ、歴史的背景を踏まえつつ、児童生徒の興味・関心を高めながら文化財保護に関する普及啓発を推進する目的を持った内容とした。

また、本年度もボランティアの方々に、火起こしや勾玉づくり体験の準備と実施中の児童生徒支援の協力をして頂いた。

#### i 授業

学校で学ぶ歴史学習が、考古学と深く関わりを持っていることから、小学校では6年生が対象となる場合が多い。授業の中で時代の流れと共に日本の代表的な遺跡については教わっているが、それを身近な存在として捉える事ができない場合が多くみられた。実物の土器や身近な地域の遺跡について知ることができれば、理解も深まり定着度も高まるように思われた。また、プロジェクター等の視聴覚機器・地域の遺跡地図や様々な視覚的教材と土器の実物を効率的に活用した授業が効果があるように感じられた。



写真14 授業風景

展示解説において、児童生徒たちは、本物の遺物を見る機会が少ないため、実施学年以外でも希望する学年がある場合は、時間の許す限り展示物の解説を行った。

展示は各時代ごとに遺物を4ヵ所に分けて展示し、順を追って説明を行う方式をとった。ある一定の時代の遺跡が多く確認されている地域の場合などは、深みを持たせるために、その時代の解説に時間を費やすなどの工夫をした。また、授業との関連性・教育効果を持たせるべく、授業担当者が展示解説を引き続き行う形式を可能な限り採用した。

博物館では見ることしかできない遺物を自らの手で触れることができた時の驚きや喜びの表情は印象的であった。

#### ii 体験学習

無料で行う火起こし体験と有料のため希望校で行う勾玉づくり、そして土器づくりなどの体験学習を行った。

##### a. 火起こし

人間が生活を行う上で、「衣・食・住」は欠かすことのできない三要素である。中でも「食・住」は、古来より火との結びつきが深く、人類が繁栄した一つの要因となる。

火起こしは、出前考古学教室の中でも人気



写真15 遺物展示解説

のある体験学習の一つである。当日の天気や道具(火きり棒と火きり板)の相性、児童生徒の操作技術で発火しないこともあるが、果敢に挑戦する姿が見られ、成功した時には大きな歓声上がる

表17 平成22年度出前考古学教室前期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒		担当職員(人)	ボランティア(人)
				学年	人数	学年	人数		
1	5/ 6 (木)	高知市	鴨田小	6	139	6	139	5	
2	5/ 7 (金)	高知市	十津小	6	51	6	51	3	1
3	5/ 10 (月)	四万十市	竹島小	5・6	17	5・6	17	3	
4	5/ 11 (火)	黒潮町	佐賀小	6	25	6	25	3	
5	5/ 13 (木)	北川村	北川小	5・6	21	5・6	21	3	
6	5/ 14 (金)	香美市	大宮小	6	30	6	30	3	
7	5/ 17 (月)	香南市	香我美小	6	57	6	57	2	1
8	5/ 18 (火)	高知市	春野東小	6	119	6	119	4	
9	5/ 20 (木)	大月町	大月小	6	42	6	42	3	
10	5/ 21 (金)	四万十市	八束中	1～3	38	1～3	38	3	
11	5/ 24 (月)	香美市	舟入小	6	31	6	46	2	
12	5/ 25 (火)	佐川町	尾川小	5・6	17	5・6	17	2	
13	5/ 26 (水)	禰原町	四万川小	5・6	6	5・6	6	2	
14	5/ 28 (金)	室戸市	室戸小	6	43	6	43	2	
15	5/ 31 (月)	高知市	泉野小	6	98	6	98	4	2
16	6/ 1 (火)	須崎市	吾桑小	6	13	6	13	2	
17	6/ 3 (木)	宿毛市	小筑紫小	5・6	28	5・6	28	3	
18	6/ 4 (金)	四万十市	下田小	6	15	6	30	3	
19	6/ 8 (火)	いの町	上八川小	5・6	9	5・6	9	2	
20	6/ 10 (木)	高知市	昭和小	6	86	6	88	3	3
21	6/ 11 (金)	中土佐町	笹場小	5・6	9	5・6	9	2	
22	6/ 15 (火)	仁淀川町	長者小	6	12	6	12	2	
23	6/ 17 (木)	四万十町	米奥小	3～6	10	3～6	10	2	
24	6/ 18 (金)	四万十町	仁井田小	5・6	23	5・6	23	2	
25	6/ 22 (火)	佐川町	佐川小	6	69	6	69	2	3
26	6/ 24 (木)	三原村	三原小	6	20	6	60	2	
27	6/ 25 (金)	四万十町	昭和小	5・6	16	5・6	32	2	
28	6/ 29 (火)	土佐市	高岡第一小	6	84	6	84	4	2
29	6/ 30 (水)	高知市	県立盲学校	中1～高3	7	中1～高3	11	3	
30	7/ 2 (金)	仁淀川町	大崎小	6	13	6	13	2	
31	7/ 5 (月)	安芸市	下山小	5・6	6	5・6	10	2	
32	7/ 16 (金)	中土佐町	上ノ加江小	5・6	12	5・6	12	2	
合 計					1,166		1,262	84	12

## 2. 指定管理事業

ほどである。体験はまず2人1組になり、マイギリ式から始め、2人ともに発火すれば、希望によりキリモミ式にも挑戦できるようにした。

火起こしを通して、古来から大切にされてきた「火」の重要性や先人達の工夫・苦勞を知り、恵まれた環境で生活する現代人と比較しながら学びとってもらうことに努めた。



写真16 火起こし

### b. 勾玉づくり

火起こし同様、欠かすことのできない体験学習の一つである。火起こしとは別に材料費300円が必要となるが、多くの学校で希望される学習内容である。古代人の思いや作る大変さを感じながら、本人が願いを込め、イメージした勾玉に姿を変えていく楽しさを味わえることが好評の理由である。

作成には1時間程度はかかる作業であるため、当日の実施内容によっては、事前に学校で「勾玉の絵を書く」「不要な部分を切る」までの工程をお願いする場合もあった。仕上がった勾玉を首からぶら下げて、満面の笑みを浮かべる児童生徒の笑顔が印象的である。

### ③ 本年度の成果

出前考古学教室は、後述するアンケート結果からもわかるように、教員・児童生徒ともに大変好評であった。授業では、身近な遺跡の話を中心に教科書学習では味わうことのない時間を過ごし、火起こしや勾玉づくりでは、古代人の暮らしや生活の一部を楽しく体験できたと思われる。また、高知県の各地域の遺跡紹介や展示解説で本物の遺物に触れることで児童生徒たちの興味・関心が高まったように思われた。

また、身近にある遺跡の学習を通して、自分たちが生活をしている地域を再認識する機会になったことであろう。これらの活動から日本人が長い年月をかけて築いてきた生活や文化を知ると共に、暮らしの中で創意と工夫を重ね合わせてきた人々の生きる力を学ぶことができたのではないかと考えている。また、発見や驚き・共感から歴史に対して興味・関心、また何かしらに意欲を持つ児童生徒が育つように願う次第



写真17 勾玉づくり

表18 平成22年度出前考古学教室後期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒		担当職員(人)	ボランティア(人)
				学年	人数	学年	人数		
1	10 / 4 (月)	土佐市	宇佐小	6	29	6	29	2	
2	10 / 7 (木)	宿毛市	松田川小	6	11	6	11	3	
3	10 / 8 (金)	黒潮町	田ノ口小	5・6	26	5・6	28	3	
4	10 / 14 (木)	香南市	佐古小	3	47	3	47	2	3
5	10 / 15 (金)	高知市	北高校	1～4	19	1～4	19	2	
6	10 / 18 (月)	高知市	一宮東小	6	53	6	53	4	1
7	10 / 19 (火)	いの町	神谷小	5・6	12	5・6	12	2	
8	10 / 22 (金)	高知市	潮江南小	6	78	6	78	4	1
9	10 / 26 (火)	いの町	川内小	6	23	6	23	2	
10	10 / 29 (金)	高知市	第四小	6	70	6	70	4	2
11	11 / 2 (火)	高知市	新堀小	6	60	6	60	3	1
12	11 / 5 (金)	高知市	潮江小	6	66	6	66	3	1
13	11 / 9 (火)	南国市	日章小	4	37	4	37	2	3
14	11 / 11 (木)	四万十市	須崎小	5・6	4	5・6	4	3	
15	11 / 12 (金)	四万十市	東中筋小	6	12	6	12	3	
16	11 / 18 (木)	土佐清水市	幡陽小	5・6	11	5・6	11	3	
17	11 / 19 (金)	土佐清水市	中浜小	3～6	20	3～6	23	3	
18	11 / 25 (木)	四万十市	東山小	6	59	6	59	3	
19	11 / 26 (金)	四万十町	影野小	5・6	16	5・6	16	3	
20	12 / 7 (火)	本山町	本山・吉野小	5・6	21	5・6	21	2	
21	12 / 9 (木)	土佐清水市	三崎小	5・6	19	5・6	19	3	
22	12 / 10 (金)	土佐清水市	下川口小	5・6	15	5・6	15	3	
23	12 / 13 (月)	南国市	三和小	4～6	78	4～6	78	3	
24	12 / 20 (月)	高知市	朝倉第二小	6	152	6	152	2	
25	1 / 13 (木)	土佐市	新居小	6	13	6	13	2	
26	1 / 18 (火)	高知市	江ノ口小	6	37	6	37	2	
27	1 / 20 (木)	土佐市	高石小	6	15	6	15	2	
28	1 / 21 (金)	高知市	長浜小	6	94	6	94	3	1
29	2 / 1 (火)	土佐市	高岡第二小	6	9	6	9	2	
30	2 / 3 (木)	高知市	初月小	6	139	6	139	3	2
31	2 / 4 (金)	土佐市	波介小	6	12	6	12	2	
32	2 / 18 (金)	高知市	浦戸小	5・6	20	5・6	20	2	
33	2 / 22 (火)	高知市	高須小	4～6	27	4～6	27	2	
合 計					1,304		1,309	87	15

## 2. 指定管理事業

である。

### i 実施回数及び実施校

後期は応募があった学校(34校)についてはすべて実施できた。後期は前期と比べ期間が長いこともあり実施可能となったが、内容によっては少ない時間配分の中で項目すべてをこなすことにはやや無理があり、児童生徒一人ひとりに細かい配慮が行き届かないこともあった。児童生徒数の多い学校では、職員やボランティアの方々に協力して頂いたが、毎年出前考古学教室に申し込んでくれる学校が増え、埋蔵文化財への理解が浸透しており、出前考古学教室の輪が広がってきていると思われる。

一方、高知市周辺や幡多地域での実施が多く、出前考古学教室への期待は大きく感じられるが、東部地域での実施が少ない。西高東低という遺跡の分布状況をそのまま反映してる状態であるが、今後、東部での開催を増やせるよう学校に働きかけることも必要であろう。

### ii 時間配分と実施内容

本年度の実施校は、小学校63校・中学校1校・高等学校2校(県立盲学校を含む)で、大半は小学校である。小学校の場合、1校時が45分授業であり、申し込みの大半は2校時を使った出前考古学教室となる場合が多い。その場合、90分間での実施内容となり、すべての内容を実施する事は困難である。対象児童生徒数、実施時間、内容によって学校側との調整が必要となる。一つの目安として、授業30～45分・展示解説30～50分・火起こし体験30～45分・勾玉づくり45～70分程度と考え、調整を行う必要がある。

また、これまでに土器づくりを実施した学校もあり、本年度も申し込み依頼を受けていたが、学校の諸事情により実施ができなかった。土器づくりに関しては、焼く前に乾燥さす工程があり、2度の訪問が必要となるので、センター職員及び学校職員ともに十分な打ち合わせが必要となる。

### iii 授業

児童生徒数の多い複数クラスの実施校(例:4クラスで150名超)での授業は、一斉学習に頼りがちな授業に陥りやすいが、できれば授業担当者を複数構え、それぞれの学級で授業を行うことが望ましい。なお、複数の授業者はそれぞれの特性・持ち味があるので、授業担当者同士で統一した方向性を打ち出しておく必要がある。

また、前後期を通じた中で「講義を行うだけでなく、少ない内容でいいので、子供たちにしっかり思考させてもらいたい。教え込みでは伝えただけで、子供の心にはほとんど残りません。」という意見もあり、授業を行う場合において、より一層の工夫が望まれる。

### iv 展示解説

解説者1人が説明を行うに当っては、児童生徒10～15人くらいが妥当ではないかと思う。そのため、児童生徒数やクラス数に応じて解説者を2～3人で行うことも必要であると思われる。また、授業と展示解説を実施する学校では、より高い教育効果を担って、授業担当者が引き続き展示解説を行ったが、後期ではこの方式があまり活用されず、小規模校において授業担当者と展示解説者が異なる場合が多かった。その際には、授業担当者と展示解説者がどのような内容で進めるかを相談し、授業担当者の内容を理解した上で解説を行う必要がある。

### v 勾玉づくり

実施内容によっては、勾玉づくりの時間が短縮される場合があるが、60分程度の時間確保が望ま

しい。1時間未満(例えば40～45分間)などの場合においては、事前に「絵を書く」「切る」までを学校側にお願ひする場合がある。また、最終工程をどこまでとするか(水研ぎ、色塗りまで)・個々の生徒の進度に違いがあるので、時間配分や全体への声かけが大切になる。

今回「勾玉の手順」を新しく作成し直し、FAX及びメールにて送付した上で、説明時には段階的に発泡スチロールで作成した勾玉を使用して行った。ただし、丸みを持たせるための「角削り」は児童生徒にとって難しく、さらに言葉を噛み砕いた説明と工夫等が必要である。

#### vi 火起こし

雨や風・湿気等の気候条件に左右されることが多い体験学習であるが、火種のついた脱脂綿を火ばさみで挟んで回すため広い場所で行うことが望ましい。また、摩擦を起こした芯棒は大変熱いので、センター職員や教職員は安全性に配慮しながら取り組まなくてはならない。特に、人数の多い学校での火起こしは、児童生徒に対する安全性が極めて低くなるので、教職員と共に巡視を怠ることがないよう努める必要がある。

#### vii 学年PTA行事

学年PTA行事は、保護者が主体となって行う学校行事である。教職員と打ち合わせを行うのではなく保護者を行うため、多大な配慮が必要になる。保護者は我々と教職員とのいわば仲介者的立場となるため、1回の打ち合わせだけではなく、数回打ち合わせを行いつつ、必要なものの抜かりがないかどうかの確認等を行う事が望ましい。

#### viii ボランティア

今年度は、10名のボランティアの方々に、前期6校・後期9校で協力して頂いた。恒常的に行っている役割は、火起こしや勾玉づくりでの準備や活動中の児童生徒への支援である。展示解説については、土器などを入れたコンテナの運搬と片付けの補助である。中規模以上の学校や実施内容によっては、ボランティアの協力は不可欠である。毎年参加して頂いている方もおり、生徒を上手く指導してくれている。

今回、これまでと同様に協力して頂いた一般の方々とは別に、高知女子大学の学生の参加があった。この参加がボランティア人員の増加につながりつつある事は、文化財保護への普及啓発活動においては喜ばしい事である。さらに一般の方々や他大学の学生へと裾野を広げていければと考える。ただし、その際においてボランティアに対するガイドラインを明確にし、センター内で徹底する必要がある。

#### ix 児童生徒・教職員のアンケートから

児童生徒の回答[回答数63校・2,269人]では、楽しかったは年間97.0(前期96.3・後期98.4)%・楽しくなかった1.4(1.9・0.0)%となっている。もう一度勉強をしてみたい97.5(98.3・96.9)%・したくない1.9(1.2・2.4)%である。これらのことから多くの児童生徒は、出前考古学教室に大変関心を持っていることが窺える。よかったと思うもの[複数回答]では勾玉づくりが88.6(93.2・86.1)%、火起こし82.6(82.9・82.4)%と体験学習が好評であった。因みに授業は、41.2(38.6・48.1)%である。

教職員の回答では、良かったは年間96.0(前期93.7・後期98.4)%、良くなかった0.0(0.0・0.0)%、今後も希望する91.2(87.3・95.2)%、希望しない0.0(0.0・0.0)%となっている。最も良かった内容は、授業91.4(93.7・98.4)%で後期の割合が特に上がっており、授業の重要性を再認識し、授業担当者が十分な事前準備を行って取り組んだ成果が表れた。展示解説は、95.9(92.9・100.0)%の回答を得た。真近で

## 2. 指定管理事業

見て、解説を聞きながら実物に触れる事ができる点が評価された要因ではないだろうか。

アンケート結果を踏まえ、次年度の授業の内容や体験活動を実施する上で、担当職員数や時間的な制約があるのは否めないが、児童生徒や教職員の希望にできる限り応えていく出前考古学教室にしていくよう努めなくてはならないと思う。

### ④ 結び

出前考古学教室は平成22年度で13年目を迎え、本年度も高知県の東から西へと学校に出向き開催することができた。参加生徒数も一昨年度に延べ2万人を超え、年々より多くの児童生徒と触れ合うことができ、この事業に対する児童生徒や教員の期待も大きなものになっている。様々な学校に出向き本物の遺物に触れてもらい、興味関心をもってもらえれば、埋蔵文化財の普及啓発を進める上で、大変喜ばしく意義あることである。

また、職員やボランティアが学校に出向き、地域の遺跡を紹介し、体験学習を行うことは、学校内活動では得ることのできない達成感や満足感を味わうことができる。それは児童生徒の視野を広げる意味においても同様であろう。訪問先の学校長及び教職員からは、出前考古学教室に対する感謝の声を多く聞く事ができた。子供たちが「今度土器をみつけに行こう」といって声をかけ合っていました。」との先生からの声や小規模校の学校長からは「本校のように交通の不便な所まで来てくださるとは大変ありがたく、生徒にとっても外部から刺激を受けることは大変意義深いことです。」と話を聞くと、出前考古学教室における諸学校からの期待を大きく感じざるを得ない。また、地域活性化のための助言を求められるなど、期待の高まりから時には我々に対して高い要求を頂くこともある。

児童生徒において、先人たちの創りあげてきた文化を知り、その手に触れる事は、身近な地域の再



写真18 東野土居遺跡1回目現地説明会

表19 平成22年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師	所属
1	埋蔵文化財の現状と課題	平成22年 9月 16・17日	榊原 佳男	文化庁文化財部記念物課
2	南四国における弥生時代後期から古墳時代初めの様相について	平成22年 11月 8・9日	福永 伸哉	大阪大学大学院文学研究科

表20 平成22年度独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者研修課程

No.	参加研修名	期間	氏名
1	建築遺構調査課程	平成22年 6月 14日 ～ 6月 18日	吉成 承三
2	三次元計測課程	平成22年 9月 27日 ～ 10月 24日	坂本 憲昭

表21 平成22年度現地説明会一覧

No.	年月日	場 所	遺 跡 名	参加人数	備考
1	平成22年10月 24日	香南市野市町東野・土居	東野土居遺跡	198人	1回目
2	平成23年 2月 19日	吾川郡いの町是友	バーガ森北斜面遺跡	240人	
3	平成23年 2月 20日	香南市野市町東野・土居	東野土居遺跡	122人	2回目
合 計				560人	



写真19 東野土居遺跡2回目現地説明会

2. 指定管理事業

表22 平成22年度講師等派遣依頼一覧

No.	日時・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
1	5月26日	吉成承三	中土佐町	講師依頼 「西山城跡・坪ノ内遺跡の 発掘調査成果からみた久礼の様相」	
2	7月2日	出原恵三	高知市教育委員会	高知市文化財保護審議会	
3	7月24日	出原恵三	高知自治体問題研究所	講師依頼 「戦争遺跡がわたしたちに 語りかけるもの」	
4	8月4～6日	前田光雄	鹿児島県立埋蔵文化財センター	芝原遺跡出土宿毛式土器の 遺物指導	
5	8月11日	出原恵三	南国市教育委員会	前浜掩体群保存整備検討委員会	
6	8月19・26日	廣田佳久	学芸員資格教育実施専門部会	学芸員資格教育に係るアドバイス	
7	9月25日	廣田佳久	社団法人徳島市 シルバー人材センター	講師依頼 「副葬品が語る高知の古墳文化」	
8	10月1日 ～ 2月18日	廣田佳久	高知女子大学	高知女子大学非常勤講師 (考古学・博物館学Ⅱ)	木・金 曜日の 5限目
9	11月14日	久家隆芳	徳島県埋蔵文化財センター	講師派遣 続・発掘へんろ調査成果報告会	
10	11月19日	廣田佳久	(財)高知市文化振興事業団	講師依頼 「土佐の古墳時代の様相」	
11	11月27日	出原恵三	高知県退職高等学校校長会	講師依頼 「弥生文化の成立と田村遺跡」	
12	12月9日	池澤俊幸	(社)建設コンサルタンツ協会 四国支部高知県部会	講師依頼 「上ノ村遺跡について」	
13	2月2日	吉成承三	中土佐町	中土佐町文化的景観策定委員会に おけるアドバイザー	
14	2月12日	久家隆芳	大阪府立弥生文化博物館	講師依頼(考古学セミナー) 「太平洋に面した大形弥生集落 -田村遺跡群の調査成果から-」	



写真20 職員専門研修1



写真21 職員専門研修2

表23 平成22年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	第2回「続・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成22年4月26・27日	中石忍・徳平涼子
2	平成22年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会 (犬山市)	平成22年6月10・11日	森田尚宏・廣田佳久
3	平成22年度第1回埋蔵文化財担当職員等研修会	平成22年9月1～3日	坂本憲昭
4	第2回「続・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成22年9月8日	中石忍・徳平涼子
5	平成22年度全埋協コンピュータ等研究委員会 中国・四国・九州ブロック会議(山口市)	平成22年9月9・10日	中石忍・徳平涼子
6	九州陶磁資料館 (西弘小路遺跡出土遺物の鑑定依頼)	平成22年10月7・8日	池澤俊幸
7	平成22年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(松山市)	平成22年10月21・22日	森田尚宏・前田光雄
8	第2回「続・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成22年10月28日	中石忍・徳平涼子
9	平成22年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 研修会(徳島市)	平成22年11月11・12日	森田尚宏・池澤俊幸
10	第2回「続・発掘へんろ」遺跡調査成果報告会	平成22年11月14日	久家隆芳
11	徳王子前島遺跡出土木製品 保存処理委託業務の中間検査	平成23年1月14日	島内洋二
12	第2回「続・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成23年3月25日	中石忍・徳平涼子

発見の手がかりとなろう。先人たちの生活と自分たちの生活を重ね合わせることで、我が国の歴史や伝統を大切にすることを育むのではないか。今後、児童生徒には高知県の文化を継承し発展させてもらいたいという願いをこめて楽しくて意義ある出前考古学教室を届けていきたいと考えている。

### (5) 研修事業

調査員の資質向上を目的として、平成22年度は文化庁文化財部記念物課の禰宜田佳男主任調査官(「埋蔵文化財の現状と課題」と大阪大学大学院の福永伸哉教授(「南四国における弥生時代後期から古墳時代初めの様相について」)により職員専門研修を9月と11月の年2回行い(表19)、県内市町村教育委員会の文化財担当職員の参加もあった。

また、本年度は奈良文化財研究所主催の埋蔵文化財専門研修「建築遺構調査課程」と「三次元計測



写真22 職員自主企画研修(新平里遺跡住居跡)

### 3. その他の事業

表24 平成22年度職員自主企画研修参加者一覧

No.	研修テーマ	研修期間	研修先	参加者
1	高知平野(田村遺跡)における弥生文化の成立と朝鮮半島青銅器文化	平成22年10月3～9日	大韓民国	出原恵三
2	縄文時代早期の石器研究 -石罅形磨石の分布とその使用について-	平成23年1月11～14日	福岡市, 大分市	松本安紀彦
3	弥生時代中期における南九州地方との交流について	平成23年1月26～28日	霧島市	久家隆芳

表25 平成22年度整理作業指導者一覧

No.	指導内容	指導日	指導者
1	西弘小路遺跡出土漆製品の整理及び分析に関する指導	平成22年5月31日・6月1日	独立行政法人東京文化財研究所 伝統技術研究室 室長 北野信彦
2	上ノ村遺跡出土木製品井筒保存処理にかかる指導	平成22年6月8日	独立行政法人奈良文化財研究所 保存修復科学研究室 室長 高妻洋成

課程」に各1名が参加し、専門的知識の向上を図った(表20)。また、文化庁主催の平成22年度第1回埋蔵文化財担当職員等研修会に1名を派遣した(表23)。

#### (6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講演や大学の非常勤講師の依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は14件の派遣を行った(表22)。

また、会議等への派遣は表(表23)のとおりである。

### 3. その他の事業

平成22年度から高知県文化財団が独自の職員自主企画研修事業を始め、本年度、埋蔵文化財センターからは4名の職員が研究企画書を立案し、3名が採用され、自主研修に赴いた(表24)。

また、整理作業を実施している西弘小路遺跡から出土した漆器製品の分析指導に独立行政法人東京文化財研究所伝統技術研究室の北野信彦室長、上ノ村遺跡の木製品の保存処理の指導に独立行政法人奈良文化財研究所保存修復科学研究室の高妻洋成室長に来高頂いた(表25)。

## IV 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 東野土居遺跡(10-1KH)

所在地 香南市野市町東野・土居

立地 台地

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成22年4月26日～平成23年3月9日

調査面積 13,960㎡

担当者 安岡猛・鍵山真一・久家隆芳・下村裕・筒井三菜

調査内容 東野土居遺跡は香南市野市町東野から土居にかけて所在する遺跡(図9)で、国土交通省が計画している南国安芸道路の建設工事に伴い平成21年度から本格的な発掘調査を実施している。遺跡は香宗川右岸に広がる古期扇状地である野市台地上に立地しており、その範囲は東西約1,150m、南北約380mと広範囲に及ぶ。本年度は県道30号香北赤岡線から香宗川との間の土居地区と平成21年度に実施した東野土居遺跡の西端に当たる東野地区の発掘調査を実施した。調査を実施するに当たり調査区を県道30号香北赤岡線から東側を調査第IV区、西側を調査第III区、国道56号沿いの東野地区を調査第I区とした。

発掘調査では弥生時代終末から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、中世、近世に亘る多数の遺構と共にコンテナケース600箱を越す膨大な量の遺物が出土した。そのほとんどは調査第IV区からの出土であり、中でも検出した竪穴建物跡の総数は弥生時代終末から古墳時代初頭と古墳時代後期の2時期を合わせると80軒を数え、各時期とも県内では最も多い部類に属する。これら竪穴建物跡は調査区内に密集しており、弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴建物跡を掘り込んで古墳時代後期の竪穴建物が建てられている場合も多々みられた。検出された竪穴建物跡の特徴としては、弥生時代終末から古墳時代初頭のものには床の一部を高くした所謂ベッド状遺構がみられ、床面からは多数の土器が出土した。その中には河内平野から持ち込まれたと考えられる庄内式の甕が出土しており、当時の交流を考えていく上で貴重な資料となっている。古墳時代後期の竪穴建物跡では北壁中央部にカマドと想定されるものが一定みられ、その周辺より煮炊きに使用したと考えられる甕などが出土している。

一方、竪穴建物跡が密集した集落域の東側からは弥生時代終末期と考えられる土器棺が5基出

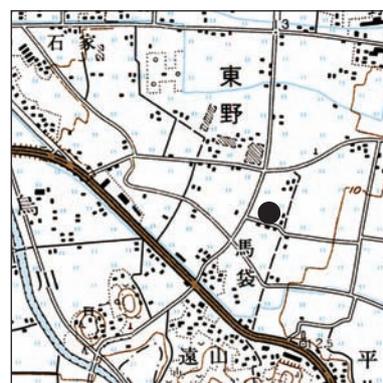


図9 東野土居遺跡位置図



写真23 遺構完掘状態

## 1. 東野土居遺跡

土した。いずれも明確な掘方等は確認されていない。棺には壺を使用し、高杯や鉢を蓋に転用しており、土器棺の大きさなどから子供(嬰兒や幼児)の棺であったものと考えられる。棺に使用された壺の中には上胴部に鋸歯文を巡らしたのもみられた。これら土器棺は集落のす



写真24 古代の総柱建物跡

ぐ側に埋葬されたものと考えられ、今後集落の様相を考えていく上で貴重な資料となった。

県道30号香北赤岡線を挟んだ西側の調査第Ⅲ区でも、調査第Ⅳ区と同様に弥生時代終末から古墳時代初頭、古墳時代後期の竪穴建物跡を検出しており、調査第Ⅳ区から調査第Ⅲ区に至る集落の広がりを確認することができ、集落はさらに西に広がるものとみられ、かつ遺構密度から考慮すると集落規模は大規模なものと推測され、この地域の拠点的な集落であった可能性が考えられる。

また、当遺跡の出現については、調査第Ⅳ区東端の香宗川に最も近い調査区から弥生時代前期末の土坑が検出されており、少なくとも当該期まで遡ることが確認された。

古代では掘立柱建物跡のほか、土坑や溝跡、柱穴等を調査第Ⅲ・Ⅳ区において検出した。掘立柱建物跡の総数は10棟を数え、調査第Ⅳ区においては方形の掘方の柱穴で構成された桁行4間、梁行3間の規模を持つ総柱の掘立柱建物跡を確認した。今回確認した中では最大規模の掘立柱建物跡で、かつ倉庫であったと考えられる。また、これら遺構の南側の調査区からは8世紀代とみられる複弁八葉蓮華文の周囲に珠文を配し、外区外縁には鋸歯文を巡らした軒丸瓦の瓦当が出土した。これら古代の掘立柱建物跡や古代瓦の出土は、官衙関連の施設や周辺に古代寺院が存在していた可能性を示唆するものと思われる。

中世では調査第Ⅲ・Ⅳ区から掘立柱建物跡、土坑、区画溝とみられる溝跡、柱穴等の遺構が検出されると共に土師質土器皿・杯の供



写真25 壺棺検出状態

膳具や瓦質土器鍋、土師質土器羽釜などの煮炊具のほか青磁・白磁などの貿易陶磁器が出土している。これら遺構・遺物は県道30号香北赤岡線に近い調査区から多く出土する傾向がみられ、かつ遺構の中には区画溝と考えられる溝跡が検出されていることから周辺に屋敷跡が存在していたものと判断される。

近世では、国道56号沿いの東野地区に位置する調査第I区からハンダ土坑や区画溝とみられる溝跡、柱穴等の遺構と共に近世陶磁器を中心とする遺物が多く出土しており、周辺には当時の村落が展開していたものとみられる。

東野土居遺跡の調査も2年目を終え、これまでに弥生時代終末から古墳時代初頭と古墳時代後期の集落跡、古代の官衙関連とみられる建物跡や溝跡そして中世の屋敷跡や近世の村落跡など弥生時代から近世に至る人々の営みを確認することができた。野市台地の東側における本格的な発掘調査はこの遺跡が初めてであり、遺跡の全体像については今後調査が進むにつれて明らかになっていくものと思われ、東野土居遺跡はこの地域の歴史像を考えていく上で重要な遺跡となってくるものと考えられる。



写真26 庄内式甕出土状態

## 2. 関遺跡

### 2. 関遺跡(10-2NS)

所在地 南国市大桶乙

立地 沖積平野

時代 弥生時代・近世

調査期間 平成22年9月28日～平成22年10月7日

調査面積 707㎡

担当者 久家隆芳

調査内容 関遺跡は国土交通省が計画している高知南国道路建設工事に伴い平成20・21年度の2か年にわたって発掘調査を実施してきた遺跡(図10)で、今年度が最終年度の発掘調査である。遺跡は物部川右岸に広がる標高約8mの沖積平野に立地し、周辺には扁平鈕式銅鐸が発見された関町田遺跡や弥生時代の集落跡、古代の官衙関連遺構、中世の屋敷跡等が検出された西野々遺跡が所在する。

平成20年度は下田川左岸の調査区で、下田川に沿う形で古代の大溝が検出されている。規模は幅約5m、深さ約1mで、出土遺物は8世紀後半のものが主体を占めていた。平成21年度も下田川左岸の調査を行い、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物を検出している。弥生時代では、土坑、柱穴、溝跡を検出し、弥生土器や石器が出土している。中世では、土坑、柱穴、溝跡を検出し、土師質土器、瓦質土器、瓦器、備前焼、貿易陶磁器等が出土している。近世では、掘立柱建物跡、柱穴、溝跡、流路を検出しており、屋敷跡が広がっていたと考えられる。出土遺物には、陶磁器、銅銭等がある。

今年度は下田川の右岸に沿う幅の狭い調査区である。検出遺構・出土遺物ともに少なかった。検出遺構では、掘立柱建物跡を1棟検出したが、構成する柱穴は小さく、その性格などは判然としない。その他には近世の土坑と性格不明遺構等を検出した。出土遺物は、弥生土器、土師器、陶磁器、瓦等である。

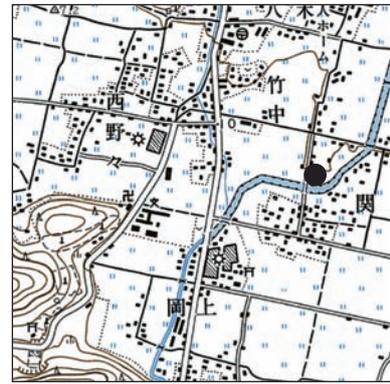


図10 関遺跡位置図



写真27 遺跡遠景



写真28 遺構完掘状態

### 3. 田村北遺跡(10-3NT)

所在地 南国市田村乙

立地 沖積平野

時代 弥生時代

調査期間 平成22年4月26日～平成22年5月31日

調査面積 327㎡

担当者 山本哲也・久家隆芳

調査内容 田村北遺跡(図11)の発掘調査は国土交通省が計画している高知南国道路建設工事に伴い実施した。

今回の調査区は327㎡と狭い範囲の調査であったが、弥生時代中期末～後期初頭の竪穴建物跡3軒をはじめ、溝跡、土坑、柱穴など多くの遺構を検出した。竪穴建物跡はすべて調査区外へと広がっていたため正確な形態・規模は不明であるが、直径4～5mの円形を呈するものと一辺約3mの方形を呈するものであると推測される。土坑は、平面形が隅丸方形、楕円形、溝状を呈するものがみられ、隅丸方形のものは、3×2mの規模であった。柱穴は長辺が約80cmと比較的大きなもので、3個並んで検出したことから、掘立柱建物跡の一部と考えられる。溝跡は北東方向から南西方向へ延びる幅約1mのものを数条検出した。

出土遺物には弥生土器、扁平片刃石斧、石鏃、叩石等がみられ、弥生土器は南四国系のものと凹線文系のもので構成されており、周辺の遺跡と同様の様相を呈していた。扁平片刃石斧は粘板岩製で、刃部は刃こぼれが著しく、半分以上が欠損していた。石鏃は3点出土しており、すべてサヌカイト製であり、うち1点は全長約5cm、重さ4.8gと大型のものである。また、竪穴建物跡からはサヌカイトの剝片が出土していることから、石器製作を行っていた可能性も考えられる。

田村北遺跡の南には、高知県の重要な遺跡の一つである田村遺跡群が存在する。田村遺跡群は縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、中でも弥生時代中期末から後期初頭にかけて最盛期を迎え、竪穴建物跡が約270軒、掘立柱建物跡が約300棟検出され、西日本でも屈指の大規模集落へと発展する。今回の調査で検出した竪穴建物跡の時期も田村遺跡群の最盛期に該当し、「田村ムラ」を構成する一部と考えられる。このことにより田村遺跡群の集落範囲が北に広がることが明らかとなり、その規模はさらに大きくなった。



図11 田村北遺跡位置図



写真29 遺構完掘状態



写真30 遺物出土状態

#### 4. 田村西遺跡

#### 4. 田村西遺跡(10-4NTN)

所在地 南国市大埔乙

立地 沖積地

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成22年5月26日～平成23年1月28日

調査面積 8,700㎡

担当者 山本哲也・久家隆芳

調査内容 田村西遺跡(図12)の発掘調査は、国土交通省が計画している高知南国道路建設工事に伴い実施したもので、今回の発掘調査では弥生時代中期中葉・中期末～後期初頭・後期末～古墳時代初頭、古代、中世、近世の6時期の遺構・遺物を検出した。そのうち、遺構数と遺物量からみて田村西遺跡は弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけて最盛期を迎える。

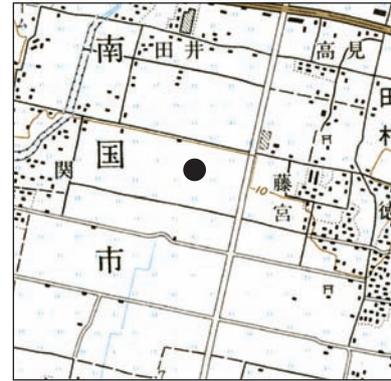


図12 田村西遺跡位置図

まず、遺跡の出現期に当たる弥生時代中期中葉では土坑が1基、中期末～後期初頭では溝跡が1条確認されている程度で、中期中葉の土坑は、不整形のものでプランははっきりとしない。弥生時代中期末～後期初頭の溝跡は、幅の狭い断面「U」字形を呈するもので北西方向から南東方向へ直線的に掘削されており、検出長は約27mで、両端とも調査区外へ延びる。この時期は、隣接する田村遺跡群が西日本でも有数の大規模集落へと発展する時期に当たるが、今回の調査では遺構・遺物ともに、ごく僅かしか確認できなかった。

遺跡が最盛期を迎える弥生時代後期末～古墳時代初頭では、竪穴建物跡5軒、溝跡3条、自然流路跡1条を検出した。周辺の地形は、北に向って徐々に標高が高くなっており、居住域は北から南に張り出した微高地上に展開しているものと推測される。竪穴建物跡は調査区内でも相対的に標高の高い地点で検出したが、5軒のうち3軒は削平の影響が著しく床面しか残存しておらず、直径5～6mの多角形、あるいは一辺5～6mの隅丸方形を呈していたものとみられる。また、竪穴建物跡のうち1軒はいわゆる焼失建物で、一辺約6mの隅丸方形をしていたものと推測され、残存状況が比較的良好で、柱の部材と思われる炭化材が残存していた。炭化材の出土状況は建物跡の西半部では放射状に倒れ、東半部では南北方向に倒れていた。

出土遺物は総じて少なく、床面から出土したものも少ないが、赤色顔料が付着した台石に近接して赤色顔料を入れていたとみられる小型の鉢が出土した。これらは使用時の原位置を保持している可能性が高い。

溝跡は居住域を挟む形で検出され、西側で検出した溝跡は、北東方向から南西方向へほぼ直線的に掘削されており、検出長約60m、幅約1.5m、深さ約0.5mを



写真31 竪穴建物跡完掘状態

測り、両端はそれぞれ調査区外へと続いていた。現在の地形を考慮すると、北東から南西に向けて流れていたと推測される。断面形はやや崩れた逆台形を呈し、底付近から遺物が多く出土した。それらの中には庄内式土器片等の搬入品も含まれていた。一方、東側では溝跡と共に自然流路跡を検出した。自然流路跡は蛇行しながら北から南に向かって流れていたと考えられるが、時期不明の新しい自然流路跡と大部分で重複し、僅かに残っていた底付近から弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器が



写真32 溝跡遺物出土状態

比較的多く出土した。一方、新しい自然流路跡からは遺物がほとんど出土していないものの、中世の溝跡に掘り込まれていたことから、それ以前のものだと判断される。

弥生時代の田村遺跡群は後期中葉以降、急速に衰退し、それに呼応するかのよう長岡台地上に集落が出現し始め、平野部から台地上へと集落の立地が移り変わると考えられてきたが、田村西遺跡や介良野遺跡のように平野部でも弥生時代後期末～古墳時代初頭の集落跡が確認され、当時の集落の様相が徐々に明らかになるにつれて、集落動向についても再考の必要性が強まっている。

古代～中世では南北方向の重複する3条の溝跡を検出した。いずれも規模は幅1.0～1.5m、深さ約0.3mで、遺物はほとんど出土しなかったものの、その方向が北から12度前後東に傾いており、香長条理の方向にほぼ一致している。また、この溝跡の一町東には旧長岡郡と旧香美郡の郡境が走っていることから、調査で確認されたこれらの溝跡は坪境など条理地割と関連がある可能性が高いものと考えられ、同じ場所に何度も重複して溝が掘削されていることから長期間にわたり、同じ地割を踏襲していたと考えられる。

これら以外に出土遺物がほとんどなく時期は不明であるが、掘削痕とみられる規則的な凹みが残る溝跡を数条検出している。この遺構に類似したものが田村遺跡群・西野々遺跡等でも検出されている。

今回の調査から課題を挙げると、弥生時代中期から後期初頭にかけて調査区域はどのように利用されていたのか、弥生時代終末期から古墳時代初頭の平野部における集落跡の実像、古代から中世にかけての香長条里との関連等がある。整理作業及び周辺の発掘調査が進めば、これらの課題を解決できると共に田村西遺跡が果たした歴史的な役割についても明らかとなるであろう。

## 5. バーガ森北斜面遺跡

### 5. バーガ<sup>もりきたしやめん</sup>森北斜面遺跡(10-5IB)

所在地 吾川郡いの町奥名・是友

立地 丘陵

時代 弥生時代

調査期間 平成22年5月18日～平成23年2月25日

調査面積 4,037㎡

担当者 吉成承三・笠井秀人

調査内容 バーガ森北斜面遺跡は、高知県吾川郡いの町奥名・是友に所在し(図13)、仁淀川の支流、宇治川左岸の標高50～80mを測る丘陵上に立地する。当遺跡は、昭和32年(1957)に地元の方によって

土器が発見され、その状況から弥生時代の集落の存在が明らかとなった。昭和49年(1974)と昭和51年(1976)に三世庵地区と奥名地区の発掘調査が行われ、竪穴建物跡3軒と、弥生時代中期後半の土器や石庖丁、叩石、打製石鏟、鉄刀子、投弾などが出土し、菖蒲谷を挟んだ標高50～80mを測る丘陵上に弥生時代の集落が存在すること(高地性集落)が明らかとなった。特に、三世庵地区で発見された竪穴建物跡は残りが良く、昭和50年(1975)に「伊野町指定文化財」として登録された。その後、平成9年(1997)と平成11年(1999)にいの町農道改良工事に伴う新崎地区と岩神地区の発掘調査が実施され、弥生時代中期後半～後期前半の竪穴建物跡や土坑などが遺物と共に発見されている。

今年度の調査は、国土交通省が計画している高知西バイパス建設工事に伴い、三世庵地区の工事用地内4,037㎡を対象に発掘調査を実施した。

今回の調査では標高が最も高い(標高59.6m前後)丘陵部(I区)は、後世の開墾の影響を受けていたが、一部に弥生時代中期の遺物包含層が残っており、通路状の段部を検出することができた。

標高55～57mを測るI区北側の調査区(II区)も、I区同様後世の削平の



図13 バーガ森北斜面遺跡位置図



写真33 遺構完掘状態



写真34 弥生土器出土状態

影響がみられたものの、人為的に造り出された平坦部が2ヵ所確認され、標高57mを測る平坦部からは、竪穴建物跡の柱穴とみられるピットが検出され、石庖丁や石鏃が出土した。また、標高55mを測る平坦部からは径3m前後を測る小型の竪穴建物跡が確認され、叩石やサヌカイトの剥片などが出土し、石器を加工していた建物であった可能性も考慮される。また、東から北東側にかけての斜面部では段部が検出され、弥生土器や石器がまとまって出土した。



写真35 石庖丁出土状態

調査対象地の北端(標高52m前後を測る)の調査区(Ⅲ区)には弥生時代中期後半の遺物包含層が遺存し、幅3～7m、長さ約10mを測る三角形状の平坦面を造り出していた。

丘陵部の南東に当たる斜面部の調査区(Ⅳ区)からは、造り出された平坦部(幅4～5m、長さ8～20m)が5段確認され、各平坦部から竪穴建物跡や炉跡が検出された。竪穴建物跡の規模は、径3～5mを測り、各建物内で炉跡と思われるピットが検出され、一部に貼床(粘土を床に敷く)の痕跡が認められた。各平坦部の斜面には柱穴が並んで検出されており、柵列ないしは竪穴建物に関連するものと考えられる。また、竪穴建物跡の外部には焼土を伴う炉跡や、石囲みの炉跡を検出することができた。

遺物は弥生時代中期末～後期初頭にかけての弥生土器、石器を中心とし、その大半は竪穴建物跡が最も多く確認されたⅣ区からの出土である。土器は南四国型甕を中心に、凹線文系土器が僅かにみられ、石器は石庖丁など生産具と共に、武器として使用されたと考えられている石鏃や投弾があった。中でも投弾は680個を数え、その多くが建物周辺部から出土している。この他に、鉄斧、鉈などの鉄器も出土しており、弥生時代中期末～後期初頭にかけての丘陵部に営まれた所謂高地性集落の様相を知る上で貴重な成果を得ることができた。

## 6. 徳王子大崎遺跡

### 6. 徳王子大崎遺跡(10-6KO)

所在地 香南市香我美町徳王子字大崎

立地 丘陵

時代 弥生時代・中世

調査期間 平成22年10月28日～平成23年1月18日

調査面積 2,100㎡

担当者 安岡猛・下村裕

調査内容 徳王子大崎遺跡(図14)は国土交通省が計画している南国安芸道路建設工事に伴い、平成17年度に実施した試掘確認調査によって新たに確認された遺跡で、平成20年度には最初の本発掘調査が実施された。遺跡は北側から延びる丘陵上に立地しており、平成20年度の本発掘調査では弥生時代前期前半の土坑や弥生時代後期の竪穴建物跡及び中世の溝跡(区画溝)などが確認されている。

本年度の調査対象区域は平成20年度の調査対象区域の東側に当たり、弥生時代後期の竪穴建物跡や中世の掘立柱建物跡、溝跡などを検出した。調査区の地形は南から北に向かって緩やかに傾斜し、北東側が最も低くなっており、標高の高い南側は後世の削平の影響を受け遺物包含層及び遺構は遺存していなかったものの、北側では弥生時代及び中世の遺物包含層と共に当該期の遺構が検出できた。

本年度確認した竪穴建物跡は1軒のみであったが、平成20年度の調査で確認された竪穴建物跡と合わせれば計5軒となり、本遺跡が立地する丘陵上には弥生時代後期の小規模な集落が存在していたことを示している。また、中世の区画溝の北側には掘立柱建物跡1棟が復元されており、当該期の屋敷が存在していたものと考えられる。

これまで香我美町で行われた南国安芸道路関係の発掘調査で、花宴遺跡などから弥生時代の自然流路跡や多数の遺物は発見されていたものの、集落跡が確認できたのは徳王子大崎遺跡が初めてであり、弥生時代後期の集落の様相を考える上で貴重な資料を得ることができた。



図14 徳王子大崎遺跡位置図



写真36 遺構完掘状態



写真37 弥生土器出土状態

## V 条例・規則等

### 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

**第1条** 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

**第2条** センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

**第3条** センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

**第4条** センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

**第5条** センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

**第6条** 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

**第7条** 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

**第8条** 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

**第9条** 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

**第10条** 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

**第11条** 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

**第12条** 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

**第13条** 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

**第14条** 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

**第15条** 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

**第16条** 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

**第17条** この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

## 2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

**第1条** この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

**第2条** 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

**第3条** 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

**第4条** この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令21高文財第670号

財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年7月19日条例第55号)第10条第2項の規定により, 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成21年12月17日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成22年4月1日から平成25年3月31日まで

本書作成データ

ハード：MacPro 2×2.8GHz Quad-Core Intel Xeon, PowerBookPro/2.5GHz

システム：MacOS X (10.6.8)

ソフト：JeditX2.27, Microsoft Excel Mac2011, ProofReader2.1.0, Adobe Photoshop® 12.0.4, Adobe  
Illustrator® 15.0.2, Adobe Indesign® 7.0.4Jなど

フォント：モリサワOTF基本7書体, Times Italicなど

プリンタ：DocuPrint C3540(文書校正)

データ：Macintosh Full DTPで入稿

高知県埋蔵文化財センター年報

第20号

2010年度

発行日 平成23年8月24日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

TEL. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社





